

昭和 56 年 度
事 業 報 告 書

自 昭和56年 4 月 1 日
至 昭和57年 3 月31日

社 団 法 人 日 本 病 院 会



目 次

昭和56年度事業報告

第 1	会務報告	1
第 2	会 議	3
第 3	陳 情	27
第 4	広 報	28
第 5	委 員 会	35
第 6	医療従事者無料職業紹介事業	47
第 7	定例研究会	48
第 8	内科臨床協議会	59
第 9	全国総合研究会	61
第10	第一線リーダー研修会	67
第11	病院視察研究会	69
第12	診療録管理通信教育	70
第13	メディカルクラーク通信教育	73
第14	事務長養成課程通信教育	75
第15	セミナー	76
第16	病院幹部医会	78
第17	海外視察研究会	80
第18	調 査 室	81
第19	病院大会	82
第20	第7回日本病院学会	85
第21	第22回人間ドッグ学会	88
第22	第5回日本診療録管理学会	91
第23	'81国際モダンホスピタルショウ	92
附録	要 望 書	94
	役員名簿	106
	委員会委員名簿	116
	会員状況	122

第1. 会 務 報 告

- 56年
4月21日 薬価基準引下げと医療費改定の同時実施に関する要望を決議
- 4月29日
~5月2日 大韓病院協会第22回・台湾病院協会第14回会議に村田副会長出席
- 5月14日
~17日 (社)日本病院会および(社)日本経営協会主催による'81モダンホスピタルショウを晴海で開催
- 6月9日 医療費改定問題で緊急常任理事会開催
- 6月9日 医療費改定説明会(行政担当官を講師として) 東 京
- 6月10日 同 上 大 阪
- 6月13日 医療費改定に対する声明書をまとめ厚相・蔵相ほか日本製薬団体連合会、報道関係に働きかけることを決議
- 7月4日 納入薬価の引き上げについて日薬連と会談
- 7月11日 病院医療への理解・認識を求めため報道関係者と懇談
- 7月25日 (社)日本病院会欠員理事の補充選挙を行い新理事3名と常任理事3名を選出
- 7月25日 病院医療危機突破を目指し全国病院団体代表者会議開催
- 8月26日 病院医療危機突破全国大会開催
- 8月28日
~29日 第22回人間ドック学会開催
- 9月4日
~6日 第7回日本病院学会開催
- 9月11日 公取委に薬価基準改定後の薬価について申告
- 9月16日 病院部問別原価計算調査第1回講習会開催
- 9月24日
~30日 大韓病院協会編成の病院医療保険実務研修団来訪
- 10月9日 公取委に薬価基準改定後の薬価について申告したことを共同記者会見で発表
- 10月13日 (社)日本病院会東京都支部設立
- 10月18日
~23日 第22回国際病院学会(シドニー)会議に内藤会長ら役員が出席
- 10月20日 「原価割れ診療報酬是正」のための病院長、開設者集会についての打合せ会を開催し、原価割れ診療報酬是正のため推進会議を設置することの検討
- 11月4日 中医協へ公私連と共に病院診療報酬原価割れ是正のための陳情署名簿を提出
- 11月4日 病院診療報酬原価割れ是正要求のため公私連と共同主催で全国病院開設者・病院長集会開催
- 11月12日 病院診療報酬適正化推進会議開催
同上設置案の検討
- 11月13日 村山厚生大臣に病院診療報酬原価割れ是正のための陳情署名簿を提出請願
- 11月14日 適正医療体制実現のため医療費問題特別委員会を設置
- 11月14日 病院診療報酬原価割れ是正のための陳情署名簿を国会に提出請願
- 11月17日 病院部門別原価計算調査第2回講習会開催

- 11月18日 第32回フィリピン病院協会定例会議に吉岡副会長出席
～ 20日
- 11月24日 病院診療報酬適正化を図るため、日病内藤会長、公私連五十嵐会長と懇談
- 12月 3日 地方税法改正の動きに対し自民税調委員会に要望書提出
- 12月18日 理学療法士の解雇問題で小平芳平、鈴木康雄両議員リハビリ施設見学のため(3施設)案内

57年

- 1月14日 病院診療報酬適正化推進会議設置案の検討、承認
- 1月26日 森下厚生大臣と内藤会長ら役員が医療費改定後の病院経営の実態説明のため大臣室で面談
- 1月29日 全日病首脳とパート医師および相続税問題で病院税制問題懇談会開催
- 2月 9日 同上推進会議への呼びかけ範囲および主催団体の検討
- 2月22日 全日病、日精協、日本医療法人協会首脳らとパート医師の報酬及び源泉所得税について病院税制問題懇談会開催
- 2月25日 病院診療報酬適正化推進会議主催団体の決定、会議開催時期具体的行動等についての検討
- 2月27日 全国公私病院連盟との協力調査で昨年6月実施の病院運営実態分析調査まとまる
- 3月 4日 病院診療報酬適正化推進会議開催期日、呼びかけ文書の検討
- 3月 9日 全日病、日精協、日本医療協首脳らとパート医師の報酬及び源泉所得税について病院税制問題懇談会開催、各大学病院に要望書を提出
- 3月10日 「パート医師」「事業承継税制」問題で厚生記者会、日比谷クラブで記者会見
- 3月11日 「パート医師」問題で再度記者会見
- 3月16日 「病院診療報酬適正化推進会議」の結成集会、スケジュール(案)、推進会議規約(案)、当面の運動方針(案)、年間スローガン(案)検討、決定
- 3月19日 第5回病院税制問題懇談会で相続税、医療法について検討
- 3月23日 第18回代議員会・第15回総会において医師会と病院団体が車の両輪としてそれぞれの機能を発揮し、厚生省、大蔵省にも医療に係る各種諮問委員会に参画せしめ、国民医療を適正に推進するための声明を決議、日本医師会代議員および厚生省、大蔵省に提出
- 3月30日 病院診療報酬適正化推進会議の出席役員、発言者等決定

第2. 会 議

総 会

第1回総会

5月16日(土) 東京ホテル浦島

- 1) 昭和55年度一般会計並びに特別会計収支決算の承認を求むるの件
原案を承認
- 2) 昭和55年度事業報告に関する件
原案を承認
- 3) 医療法の一部改正案に対する要望書の提出に関する件
厚生省・関係団体に提出
- 4) 医療費改訂要望書の提出に関する件
原案を承認
- 5) 薬価基準引き下げと診療報酬改定の同時実施に対する要望書の提出に関する件
原案を承認

第2回総会

3月23日(火) 番町共済会館

- 1) 診療報酬改定後の経過について
報告を了承
- 2) パート医師に関する要望書について
報告を了承
- 3) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
原案に看護師の養成、会員の増強、病院団体の大同団結等を追加することで承認
- 4) 昭和57年度予算(案)に関する件
原案を承認
- 5) 昭和56年度補正予算(案)に関する件
原案を承認

代 議 員 会

第1回代議員会

5月16日(土) 東京ホテル浦島

- 1) 昭和55年度一般会計並びに特別会計収支決算の承認を求むる件
原案を承認

2) 昭和55年度事業報告に関する件

原案を承認

3) 医療法の一部改正案に対する要望書の提出に関する件

厚生省・関係団体に提出することで承認

4) 医療費改定要望書の提出に関する件

原案を承認

5) 薬価基準の引下げと診療報酬改定の同時実施に対する要望書の提出に関する件

原案を承認

臨時代議員会

7月25日(土) 日本病院会会議室

1) 欠員理事の選出について

丹羽直久・水川勇・北原哲夫、各氏が選出

第2回代議員会

3月23日(火) 番町共済会館

1) 診療報酬改定後の経過について

報告を了承

2) パート医師に関する要望書について

報告を了承

3) 昭和57年度事業計(案)に関する件

原案に看護師の養成・会員の増強、病院団体の大同団結等を追加することで承認

4) 昭和57年度予算(案)に関する件

原案を承認

5) 昭和56年度補正予算(案)に関する件

原案を承認

理 事 会

第1回理事会

4月21日(火) 日本病院会会議室

1) 昭和55年度事業報告について

原案を承認

2) 医療法の一部改正案に対する日本病院会医療制度委員会の中間答申について

原案を承認

3) 医療法の一部改正案に対する要望書の提出について

原案を承認

- 4) 医療費改訂要望書について
厚生大臣に提出した報告を了承
- 5) 全国公私病院連盟との合同調査について
再度検討にて了承
- 6) 日本病院学会評議員推せんについて
岡本道雄・丸毛英二両氏の承認
- 7) 委員会開催結果について
報告を了承
- 8) 各研究会委員に事務局員を加える件について
委員会に事務局の意見を反映させるため提案を承認
- 9) 学術委員長の交替及び委員会相談役の委嘱について
新委員長に北原哲夫氏相談役に渡辺進氏が承認
- 10) 事務局職員の任免について
新規採用者3名・退職者3名が承認
- 11) 事務局新組織と業務分掌(案)について
企画広報室・総務課・事業課の組織となり原案を承認
- 12) 会員の入退について
前回理事会以降の入退会の会員を報告、承認
- 13) 短期人間ドック実施指定病院について
博慈会記念病院(判定4床)
- 14) 自動化検診指定施設について
南大阪クリニック・日本大学医学部附属診療所・山口総合健診センター・協栄生命関西検
診所・音羽病院の指定を承認
- 15) IHF常任理事の後任推せんについて
人選は会長に一任することで承認
- 16) 薬価基準引き下げと診療報酬改定の同時実施に関する要望書について
同時実施の要望書を関係機関に提出することで承認
- 17) 昭和56年度全国総合研究会について
関係団体との共催等も考慮して原案を承認
- 18) 会員の拡大について
再度協議・検討することで了承
- 19) 役員欠員補充について

- 代議員は書面審理とし理事・常任理事の選出は、補欠選挙とすることで承認
- 20) 昭和55年第四半期及び全期会計報告、監査報告について
原案どおり承認
 - 21) 事務局長の人事について
上畑邦朝新事務局長の承認
 - 22) 昭和56年度社会貢献表彰候補者の推せんについて
大野常任理事に一任することで了承
 - 23) 辞任常任理事に感謝状並びに記念品を贈呈する件について
副会長、専務理事に一任

臨時理事会

7月25日(土) 日本病院会会議室

- 1) 欠員常任理事の補充について
二本杉皎・北原哲夫・高山瑩各氏に決定

第2回理事会

9月3日(木) 神戸国際ホテル

- 1) 「点数表改正点の解説」購入と会員送付について
会員に無料送付した旨の報告がありました承
- 2) 医療費引上げに伴う説明会の開催結果について
東京・大阪で開催した旨報告がありました承
- 3) 第7回日本病院学会の運営について
学会日程が報告されました承
- 4) 日本病院学会評議員の推せんについて
西能正一郎・道下忠蔵・二本杉皎・北原哲夫各氏の推せん大谷博信氏の除外(死去のため)
が承認
- 5) 第8回・第9回日本病院学会開催について
第8回は東京(7/15~17)・第9回は長崎県(期日は未定)で開催することで承認
- 6) IHF後任常任理事とAHF理事承認について
IHF常任理事は吉岡観八氏、AHF理事は内藤景岳・河野稔・村田勇各氏が承認
- 7) 第1四半期会計報告及び監査報告について
原案を承認
- 8) 委員会の開催結果について
報告を了承
- 9) '82国際モダンホスピタルショウの開催結果について

5/14(木)～17日(日) 東京・晴海において開催されたむねの報告を了承

- 10) 全国公私病院連盟との相互協力調査について
協力調査の覚え書を交すことで承認
- 11) 短期人間ドック指定病院について
総合病院水島中央病院・養老中央病院・社会保険鳴和総合病院・庄原赤十字病院・遠山病院の指定が承認
- 12) 昭和56年度社会貢献表彰の候補者について
南濫・小原知次郎・大原松栄各氏が推せんされ承認
- 13) 第33回保健文化賞(昭和56年度)の候補者について
野島治氏の推せんが承認
- 14) 相沢正樹理事(長野県)逝去について
報告に対し全員で黙祷をささげた
- 15) 日本製薬団体連合会並びにマスコミとの懇談会開催結果について
日本経済新聞社・毎日新聞社と役員との間で懇談会を開催したむねの報告があり了承
- 16) 全国病院団体代表者会議(仮称)の開催結果について
“病院医療危機突破全国大会”を開催するむねの報告があり了承
- 17) 病院大会の開催結果について
協賛38団体・32都道府県、314病院、886名が参加したむねの報告があり了承
- 18) 事務局職員の任免・異動について
山口勝利・井上新一・高原章宏の任免、異動が承認
- 19) 非常勤医師の源泉所得徴収の合理化に関する要望書作成について
大蔵大臣に要望書を提出することが承認
- 20) 会員の入退について
前回理事会以降の入退会の会員を報告、承認
- 21) 医療費改定結果に伴う今後の対策について
日本医師会の考え方を是正してもらうと同時に政府に対する病院の態度、国民に対する理解を深めてもらうという基本的な考え方としてゆくこと了承

第3回理事会

11月24日(土) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
年2回位英文による機関紙を発行し、国際病院会会員に送付することを付加し原案を承認
- 2) 診療報酬対策に伴う臨時会費の徴収に関する件

病床数別に会費を徴収することで承認

- 3) 昭和57年度予算(案)に関する件
一般会計収支予算第2次修正案が提出されたが次回の審議となる
- 4) 診療報酬改定に対する今後の運動方針に関する件
社会保険委員会で内保連に対して「緊急是正要望について」という要望書を提出した
- 5) 医療費対策特別委員会の設置について
委員長に吉岡観八氏、委員に有沢源蔵・池谷巨・榎本敏雄・大野松次・岡山義雄・北原哲夫・高山瑩・三宅浩之の各氏で構成しているむねの報告があり承認
- 6) 病院問題調査研究会案の設置について
「病院政経調査会」「病院問題議員研究会」を常置し、病院の抱える諸問題を検討してゆくことが承認
- 7) 新任常任理事の業務分掌について
広報担当は高山瑩氏雑誌担当は北原哲夫氏公衆衛生活動は二本杉皎氏が担当するむねの報告があり承認
- 8) 研究、研修費の控除に関する要望書作成について
研究・研修費に支出した費用が経費として控除されるよう要望書を作成するむねの報告があり承認
- 9) 賛助会員の拡大について
役員1人につき2社程の勧誘していただくことが承認
- 10) 賛助会員賀詞交歓会の開催について
1月19日(火) 東京アメリカンクラブで開催することが承認
- 11) 日本診療録管理学会評議員の追加について
黒田恭一(福岡県立病院長)、松岡順之助(佐賀医科大学病院放射線科部長)の両氏が承認
- 12) 会員の入退会について
前回理事会以降の入退会の会員を報告、承認
- 13) 委員会、全国総合研究会、セミナーの開催について
報告を了承
- 14) 病院大会決議の陳情について
病院医療危機突破全国大会の決議を8月27日厚生省に陳情したむね報告、了承
- 15) 医薬品流通の公正化に関する申立及びその経過について
医薬品流通の公正化に関する申立書を公正取引委員会に提出したむねの報告と経過説明があり了承

- 16) 診療報酬、原価割れ点数是正促進に関する請願、陳情及び病院長集会について
原価割れ点数の是正のため中医協、厚生省、国会議員に陳情、請願活動を行ったむねの報告があり了承
- 17) 公私病院連盟との協力調査経過について
6月「病院運営実態分析調査」の協力調査を実施、原価計算の講習会も開催したむねの報告、了承
- 18) 人工透析機具耐用年数短縮の確認について
金属性以外のものは5年の耐用年数として扱う回答があったむねの報告、了承
- 19) 第22回人間ドック学会開催結果について
東京・経団連ホールで8月28日・29日の両日開催延べ750名の参加。
次回は57年9月上旬青森市で大内清太郎氏（青森県立中央病院長）学会長が就任したむねの報告、了承
- 20) 第7回日本病院学会開催について
9月4日～6日神戸市・神戸国際会館において岡本道夫学会長（神戸市立中央市民病院長）のもとで開催延べ4,000人の参加。次回は57年7月15日～17日東京・日本都市センターで丸毛英二氏（東京慈恵会医科大学附属病院長）学会長のもとで開催するむね報告、了承
- 21) 大韓民国医療保険実務研修について
大韓病院協会で「病院医療保険実務研修団」を編成し我が国の医療保険制度・病院経営に関する研修を実施したむねの報告、了承
- 22) 第5回日本診療録管理学会の開催結果について
10月15・16の両日東京・日本教育会館において澤崎博次学会長（関連通信病院長）のもとで開催約600名の参加。次回は57年9月2・3日福岡市で大塚貞光氏（福岡大学医学部教授）学会長のもとで開催するむね報告、了承
- 23) 第22回国際病院学会（IHFシドニー大会）の開催結果について
10月18日～23日開催された。第23回は、58年6月スイスで開催予定の報告、了承
- 24) 社団法人日本病院会東京支部の結成について
10月13日番町共済会館で支部設立総会が開催され、支部長に河野稔氏（北品川総合病院長）が就任したむねの報告、了承
- 25) 日本顕彰会推せん結果について
小原知次郎・南 溢両理事の紹介報告
- 26) 秋の叙勲受章について
勲三等瑞宝章 足立修嶽（長岡赤十字病院長）・佐分利六郎（同愛記念病院長）・藍綬褒章 小口源一郎（昭和伊南総合病院長）各氏の紹介報告

- 27) 医療従事者無料職業紹介事業の継続について
昭和56年11月30日～昭和58年11月29日迄の2年間の事業有効許可を労働大臣から認可されたむねの報告、了承
- 28) 第2四半期の会計報告及び監査報告について
一般会計収入合計は、208,838,918円、支出合計125,121,838円であると報告
- 29) 昭和56年度給与改定及び年末賞与支給について
国家公務員の給与改定があるまで改定はできないむね報告、年末賞与は2.8ヶ月以内の支給とする
- 30) 第2回医療事故対策講座の開催について
主催(株)日本病院共済会、後援(社)日本病院会、安田火災海上保険(株)で57年1月22日に安田火災海上保険(株)講堂で開催することが承認
- 31) 短期人間ドック実施指定病院について
三菱水島病院の指定を承認

第4回理事会

2月23日(火) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
原案に防災セミナーの開催を追加し承認
- 2) 昭和57年度予算(案)に関する件
原案どおり承認、臨時会費として200床まで20,000円、201床以上30,000円を徴収し医療費対策費に使用することが承認
- 3) 昭和56年度補正予算(案)に関する件
原案どおり承認
- 4) 会員バッヂ、会員証制定について
バッヂの作成は承認、会員証は継続審議
- 5) 諸規定検討委員会の設置について
委員は、野村秋守・大野松次・池谷巨・榎本敏雄・高山瑩各常任理事、財津晃代議員会議長上畑邦朝事務局長で構成することが承認
- 6) 委員会、全国総合研究会、セミナーの開催結果について
報告を了承
- 7) 医療法改正に対する中間答申について
報告を了承。追加委員として河野稔副会長、大野常任理事、鈴木憲輔氏(八千代中央病院長)に委嘱することが承認
- 8) 地方税法の改正による税負担増に対する要望書について

原案どおり承認

- 9) パート医師に関する要望書について
パート医師の報酬改善の要望書を各大学に提出することが承認
- 10) 「病院診療報酬適正化推進会議」について
診療報酬の適正化を計るため各団体との協議機関を設置し、情報、意見の交換を図っていくことが承認
- 11) 病院税制問題懇談会の開催について
全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会、日本病院会が協調し、パート医師の源泉税、相続税減価償却等税制問題等を今後検討することとなった。
- 12) 厚生大臣との面談結果について
1月26日森下元晴厚相に内藤景岳会長、大野常任理事、遠藤香苗理事、玉置英夫（和歌山・玉置病院長）が面談し、医療費改定による実態と病院経営の実情を説明、再是正を要望
- 13) 医薬品の効果の実態について
製薬会社に質問状を提出することが承認
- 14) 公私病院連盟との57年度合同調査実施について
57年度は合同調査を実施することが承認
- 15) (社)日本病院会東京都支部の報告について
設立以降の活動を報告
- 16) 日本病院学会評議員の追加について
戸川潔（茨城県立中央病院長）氏の追加を承認
- 17) 国際委員会委員の追加について
樋口康子（日本赤十字社）氏の追加を承認
- 18) 第5回日本診療録管理学会会計報告及び監査報告について
収支の報告を承認
- 19) 第3四半期会計報告及び監査報告について
原案どおり承認
- 20) 昭和58年度経理展望について
事業を診療報酬、税制に主体をおき、研究会、セミナー等の実施は企画だけとし、外注する方針を今後検討
- 21) 会員の入退会について
前回理事会以降の入退会の会員を報告、承認
- 22) 事務職員の任免について
平澤和彦の採用、神出高吉の退職を承認

- 23) 医療金融公庫の統廃合に反対の要望について
全理事会名で要望書を提出することを承認
- 24) 処方料の引き上げの申し入れについて
原案作成については、吉岡観八副会長、大野松次、有澤源蔵、高山瑩各常任理事で行い、
中医協、日医に提出していくことが承認
- 25) 広島県の現状について
今後日病の目的に賛同し協力していく旨の報告、了承

常任理事会

第1回常任理事会

4月11日(土) 日本病院会会議室

- 1) 委員会開催結果について
報告を了承
- 2) 医療費改訂要望書について
代議員会、総会において緊急決議された医療費改訂につき決議文を厚生大臣あてに提出し
たむねの報告
- 3) 医療法の一部改正案についての要望書に対する中間答申について
原案を承認
- 4) 昭和56年度海外研修旅行担当旅行会社について
5社が決定したむねの報告
- 5) 全国公私病院連盟との合同調査について
再度検討することで了承
- 6) 昭和56年度全国総合研究会について
関係団体との共催等も考慮して原案を承認
- 7) 会員の拡大について
再度協議・検討するところでした
- 8) 日本病院学会評議員の推せんについて
岡本道雄(神戸市立中央市民病院長)・丸毛英二(東京慈恵会医科大学付属病院長)両氏
の推せんを承認
- 9) 各研究会委員に事務局員を加える件について
委員会に事務局の意見を反映させるため提案を承認
- 10) 昭和56年度社会貢献表彰候補者の推せんについて
大野松次常任理事に一任することで了承

11) 役員の欠員について

代議員の欠員は各地元に依頼し、選出してもらい理事・常任理事の補充は補欠選挙の内規を作り全理事会に図ることで承認

12) 学術委員長の交替及び委員会顧問の委嘱について

新委員長 北原哲夫氏(東京通信病院長)、相談役 渡辺進氏に委嘱することで承認

13) 事務局職員の任免について

採用者 上畑邦朝、浜田一美、菅原州一、野間啓子
退職者 小谷宏子、小野塚博、本橋成一、の任免が承認

14) 事務局新組織と業務分掌(案)について

企画広報室・総務課・事業課の組織となり、原案を承認

15) 会員の入退会について

正会員 3件、賛助会員 1件の入会と正会員 7件、賛助会員 1件の退会を承認

16) 短期人間ドック実施指定病院について

東京都・(財)博慈会記念病院(判定4床)の指定を承認

17) 自動化検診指定施設について

南大阪クリニック(大阪府)・日本大学医学部附属診療所(東京都)・山口総合健診センター(山口県)・協栄生命関西検診所(大阪府)・洛和会音羽病院(京都府)の指定承認

第2回常任理事会

4月21日(火) 日本病院会会議室

1) 昭和55年度事業報告について

原案どおり承認

2) 委員会開催結果について

報告を了承

3) '81国際モダンホスピタルショウ開催期間中の研究会開催の案内について

医事研究会、看護管理研究会の開催が承認

4) 薬価基準の引き下げと診療報酬改定実施に関する要望書について

同時実施の要望書を関係機関に提出することで承認

5) 会員拡大について

常任理事・理事に会員拡大の協力依頼することが承認

第3回常任理事会

5月9日(土) 日本病院会会議室

1) 委員会開催結果について

報告を了承

- 2) '81国際モダンホスピタルショウの開催について
本会の活動紹介（パネル展示）経費を補正予算を組むことで承認
- 3) 全国公私病院連盟との相互協力調査について
協力調査の覚え書を交したむね報告、承認
- 4) 病院視察研究会の開催について
兵庫県・神戸市立中央市民病院・神戸海星病院
岡山県・倉敷中央病院の承認
- 5) 日本病院事務管理学会の結成について
再度検討することです承
- 6) 昭和58年度日本病院学会について
開催地について再度協議することです承
- 7) 欠員役員の補充について
代議員は書面審理とし、理事・常任理事の選出は補欠選挙とすることで承認
- 8) '81国際モダンホスピタルショウ開催の実施計画
「ガンとのたたかい」をテーマとして実施することが承認
- 9) 会員の入退会について
正会員2件、賛助会員1件の入会と正会員2件、賛助会員2件の退会が承認
- 10) 短期人間ドック実施指定病院について
岡山県・総合病院水島中央病院の指定が承認
- 11) 昭和56年度春の叙勲受彰者に記念品を贈呈する件について
勲三等以上に記念品を贈呈することが承認

緊急常任理事会

6月9日(火) 日本病院会会議室

- 1) 今回の診療報酬改定について

実態をアンケート調査する、全国の都道府県病院協会長の会合、診療報酬改定や対製薬業界との問題についての意見を広報に掲載することなどを了承

第3回常任理事会

6月13日(土) 日本病院会会議室

- 1) 委員会、研究会の開催結果について

報告を了承

- 2) '81国際モダンホスピタルショウの開催結果について

5月14～17日東京・晴海で開催し、出品103社延べ入場者数4万人であったむね報告

- 3) 薬価基準の引き下げと医療費の引き上げに伴う6月9日の緊急常任理事会決定に基づく今後

の業務の進め方について

「厚生省・関係省庁・団体へ声明書を提出する」「日本製薬団体連合会及び特定メーカーとの会合」「資料収集の協力依頼を各県病院協会会長あてに送付」「各県病院協会会長会議を開催する」ことなどが承認

4) 欠員理事の補充（補欠選挙）実施の取り扱いについて

内規に基づき7月25日（土）に開催することです承

5) 昭和56年度社会貢献表彰の候補者について

南 溢・小原知次郎両理事・大原松栄（大阪乳児院看護長）の推せんがあり承認

6) 第33回保険文化賞（昭和56年度）の候補者について

野島治（大阪整肢学院副院長）の推せんがあり承認

7) 会員の入退会について

正会員5件、賛助会員2件の入会と正会員5件、賛助会員4件の退会が承認

8) 「点数表改正点の解説書」購入と会員送付について

3,500部購入し、会員に無料にて配布したむね報告、承認

9) 医療費改定に伴う説明会の開催結果について

東京（6月9日）・大阪（6月10日）に説明会を行ったむねの報告、承認

10) '81病院設備展に対する協賛名義使用依頼について

協賛することが承認

11) 第8回日本病院学会開催日程について

昭和57年7月15日（木）～17日（土）を予定しているむね報告、了承

12) 短期人間ドック指定病院について

養老中央病院（岐阜県）・社保鳴和総合病院（石川県）の指定が承認

13) 夏期賞与の支給について

6月15日に夏期賞与を支給することが承認

第4回常任理事会

6月23日（火）日本病院会会議室

1) 第7回日本病院学会の準備状況（中間報告）について

報告を了承

2) 委員会の開催結果について

報告を了承

3) 欠員理事の補欠選挙告示に伴う立候補の現況及び堀内常任理事辞任に関する件

理事補欠選挙立候補には、水川勇（市町村）・丹羽直久（日赤）・久我隆之（済生会）・鈴木憲輔（個人）・北原哲夫（国その他）・岡崎通（国立）の各氏が立候補しているので

調整をとる。堀内光常任理事の辞任は了承

4) 医療費改定の結果に伴う今後の対策について

7月4日(土)にマスコミとの懇談会を開催、7月11日(土)日本製薬団体連合会との懇談会を開催していくことが承認

5) 会員の入退会について

正会員5件、賛助会員3件の入会と正会員3件、賛助会員1件の退会が承認

6) 日本病院会と全国公私病院連盟との協力調査に関する覚え書の交換について

調査時期・項目・経費の負担等を覚え書として交換することが承認

第5回常任理事会

7月11日(土) 日本病院会会議室

1) 委員会開催結果について

報告を了承

2) 欠員理事の立候補について

欠員理事3名に対し、6名が立候補しているむねの報告、了承

3) 日本製薬団体連合会との懇談会開催結果について

製薬団体代表5社と懇談したむねの報告、了承

4) 医療費改訂に伴う今後の対策について

病院団体の代表会議を開催して対策を協議することが承認

5) マスコミとの懇談会の開催について

テーマとして「最近の医療に関する報道傾向」「医療費改定の影響」「第2臨調報告に基づく問題点」の提案があり承認

6) IHF後任常任理事とAHF理事承認について

IHF後任常任理事に吉岡観八副会長を推せんし、AHF理事には、内藤景岳会長・河野稔・村田勇両副会長を推せんしているむね報告、承認

7) 補欠選挙について

代議員会において、理事の選出、理事会において常任理事の選出することが承認

8) 会員の入退会について

正会員3件、賛助会員2件の入会と正会員8件、賛助会員1件の退会が承認

9) 短期人間ドッグ指定病院について

広島県、庄原赤十字病院の指定が承認

10) (財)省エネルギーからの協力依頼(名義使用及び協力委員派遣)について

名義使用は承認、協力委員は事務局長を派遣することで承認

11) 第7回日本病院学会へ韓国、台湾、比国、インドネシア各病院協会長招待について

招待することで承認

12) 韓国病院実務者の病院研修団訪日について

本会の医事研究会で接待してもらう予定になっているむねの報告、了承

第6回常任理事会

7月21日(火) 日本病院会会議室

1) 委員会の開催結果について

報告を了承

2) 日葉連およびマスコミとの懇談会の開催結果について

“6月1日の医療費改定の影響”等を中心テーマとして日本経済新聞社・毎日新聞社・本会役員との間で懇談会を開催したむねの報告、了承

3) 社団法人日本精神病院協会との会合の開催結果について

日本精神病院協会・全日本病院協会・日本病院会で懇談会を開催し医療費再引き上げをすすめるため早急に行動をおこす必要があることを確認したむねの報告、了承

4) 相沢正樹理事(長野県)死去について

ご逝去の報告があり全員で黙祷

5) 病院収支バランスの動向に伴う今後の対策等について

全国病院団体代表者会議に図ることで承認

6) 全国病院団体代表者会議(仮称)について

会議進行・議案・今後の行動についての検討を行った

7) 会員の入退会について

正会員2件の入会と正会員2件の退会が承認

8) 日本病院学会評議員推せんについて

西能正一郎(西能病院院長)・道下忠蔵(石川県立高松病院院長)両氏の推せん、大谷博信(雄勝中央病院名誉院長)氏の除外が承認

9) 日本衛生検査所協会より協賛名義使用願いについて

協賛することで承認

10) 第16回健康強調月間に対する協力名義使用願いについて

協力することで承認

11) 短期人間ドック実施指定病院について

三重県・遠山病院の指定を承認

第7回常任理事会

8月18日(火) 日本病院会会議室

1) 病院医療危機突破対策について

- 8月26日(水) 日本都市センターにおいて病院大会を実施し、診療報酬の即時再是正を訴えることで承認
- 2) 病院勤務医の図書費手当・研究費手当について
河野稔副会長が要望書を作成し検討することで承認
 - 3) 臨床予防医学委員会委員長交代について
新委員長に樫田良精氏が就任、承認
 - 4) 病院長セミナーの開催について
吉岡観八・村田勇両副会長と高山瑩常任理事で企画することで承認
 - 5) ニュース発行増ページに伴う経費の問題と役員の寄稿依頼について
提案のとおり承認
 - 6) 非常勤医師の源泉所得税徴収の合理化に関する要望書作成について
要望書を作成し、大蔵省へ提出することで承認
 - 7) 国際交流基金運用規定及びIHF常任理事の推せんについて
運用規定については、森公認会計士に依頼することとなりIHF常任理事に吉岡観八副会長を承諾したむねの報告があり承認
 - 8) 会員の入退会について
正会員9件、賛助会員1件の入会と正会員6件、賛助会員6件の退会が承認
 - 9) 短期人間ドック指定病院について
一病院申請があったが内規点数がみたされていないため整備の上再申請することで承認
 - 10) 事務局職員の任免・異動について
井上新一・山口勝利・高原章宏の任免・異動が承認
 - 11) 第7回日本病院学会評議員の追加について
二本杉皎(大阪赤十字病院長)・北原哲夫(東京通信病院長)の承認
 - 12) 欠員理事の補欠選挙及び常任理事の選出結果について
常任理事に二本杉皎(大阪赤十字病院長)・北原哲夫(東京通信病院長)・高山瑩(高山整形外科病院長)理事に水川勇(岐阜市民病院長)・北原哲夫(東京通信病院長)・丹羽直久(武蔵野赤十字病院長)各氏の報告があり承認
 - 13) 全国病院団体代表者会議の開催結果について
出席者34名があり、医療費改定による病院収支状況等について会合したむね報告、了承
 - 14) 病院医療危機突破全国大会実行委員会の開催について
12団体が出席し、大会開催に関する概要を決定したむねの報告、了承
 - 15) 昭和57年春の叙勲及び賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて
会長に一任することで承認

16) 第1四半期会計報告及び監査報告について

原案どおり承認

17) 委員会の開催結果について

報告を了承

18) 第7回日本病院学会について

各県病院協会長を招待することで承認

第8回常任理事会

9月22日(火) 日本病院会会議室

1) 今後の診療報酬改定対策について

社会保険委員会で検討の上、内保連に提出することが承認、医療費対策特別委員会の設置が承認され委員として、吉岡観八副会長、岡山義雄、有澤源蔵、榎本敏雄、池谷亘、北原哲夫、高山瑩各常任理事、三宅浩之委員長が決定する

2) 新任常任理事の業務について

広報担当に高山瑩・日本病院会雑誌担当に北原哲夫・公衆衛生活動担当に二本杉皎各常任理事に担当いただくむね報告、了承

3) 医薬品流通の公正化に関する申立書について

申立書を公正取引委員会に提出したむねの報告、承認

4) 大会決議の陳情について

大会決議を大蔵省・日本医師会・中医協・国会等にも陳情を実施してゆくで承認

5) 研究・研修費の控除に関する要望書作成について

病院税制の改正点をまとめ折衝していくことで承認

6) 10月・11月期常任理事会等の開催について

10月9日常任理事会、11月14日常任理事会、11月24日理事会を開催として承認

7) 国際交流基金について

特別会計として何年間か積立てをしていくことで了承

8) 第7回日本病院学会開催結果について

9月4日～6日神戸市・神戸国際会館で開催し約4,000名の参加者があったむねの報告、了承

9) 委員会の開催結果について

報告を了承

10) 診療報酬対策特別会計について

1口10,000円、1口以上の負担金を徴収することで承認

11) 会員の入退会について

- 正会員 4 件、賛助会員 2 件の入会と、賛助会員 1 件の退会が承認
- 12) 公私病院連盟との協力調査について
経営実態調査の中間報告がありました
- 13) 人工透析機具用途別耐用年数短縮について
報告を了承
- 14) 学校法人川崎学園医療短期大学における学科設置について
医療秘書科通信教育・臨床栄養科の設置について賛同、要望することで承認

第9回常任理事会

10月9日(金) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
11月14日(土)定例常任理事会の時に再協議することで承認
- 2) 会員の入退会について
正会員 1 件の入会と正会員 1 件の退会、賛助会員 1 件の退会を承認
- 3) 大韓民国医療保険実務研修について
韓国の医療視察団実務研修が、無事終了したむねの報告がありました
- 4) 昭和56年 6 月度病院経営収支調査中間報告について
病院経営収支調査月報の調査目的方法等の報告があり、承認
- 5) 日本顕彰会推せん結果について
小原知次郎・南 溢両理事の紹介があり、承認
- 6) (社)日本病院会東京都支部設立総会開催について
10月13日設立総会開催された旨の報告、承認
- 7) 第8回日本病院学会開催について
昭和57年 7 月15日(木)~17日(土)の3日間、東京の都市センターホールにて開催される旨承認
- 8) 委員会の開催結果について
報告を了承

第10回常任理事会

11月14日(土) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
原案どおり承認
- 2) 昭和57年度予算(案)に関する件
収支は 273, 197, 000円(前年比 16, 870, 000円増)となる旨報告、協議の結果、次回へ持越し。
- 3) 昭和56年度給与改定及び年末賞与支給に関する件

国家公務員の給与改定があるまで、改定は出来ないこと、また、年末賞与支給は、2.8カ月前後に決定が承認

4) 賛助会員に関する件

賛助会員の入会件数が低いので、役員1人につき2社程の勧誘を願うことで承認

5) 賛助会員賀詞交歓会の開催に関する件

1月19日(火)、東京アメリカンクラブにて開催することが承認

6) 会員の入退会について

正会員3件の入会と正会員3件の退会、賛助会員6件の入会と賛助会員1件及び移動賛助会員1件、退会撤回会員1件を承認

7) 日本診療録管理学会評議員の追加について

黒田恭一(福井県立病院長)・松田順之助(佐賀医大病院放射線科部長)氏の追加が承認

8) 秋の叙勲受章について

勲三等瑞宝章足立修嶽(長岡赤十字病院長)・佐分利六郎(同愛記念病院長)・藍綬褒章小口源一郎(昭和伊南総合病院長)の報告があり了承

9) (社)日本病院会東京都支部の結成について

10月13日(火)、番町共済会館で、東京都支部総会が開催、その設立が承認された旨報告あり了承

10) 第5回日本診療録管理学会の開催結果について

10月15日・16日の両日、日本教育会館で開催、600名が参加

11) 第22回国際病院学会(シドニー大会)の開催結果について

10月18日～23日の6日間、オーストラリアのシドニーに於いて開催

12) 診療報酬、原価割れ料金は正促進に関する請願陳情及び病院長集会について

11月4日麴町会館地財ホールで、「全国病院開設者・病院長集会」を開催、請願署名数は、1,057病院、45,481名であった

13) 医療従事者無料職業紹介事業の継続について

昭和54年11月30日～56年11月10日迄の実績は、求人数1,430名、求職者数51名、決定2名であった

14) 第2四半期会計報告及び監査報告について

会費収納率は、正会員会費は93.6%、人間ドック部会費は101.2%、賛助会員会費84.9%である。一般会計収入合計208,838,918円、支出合計125,121,838円である。

15) 第2回医療事故対策講座の開催について

57年1月22日、安田火災海上保険(株)講堂に於いて参加人員150名で開催予定

第11回常任理事会

12月12日(土) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度事業計画(案)に関する件
第8回日本病院学会、第23回人間ドック学会、第6回日本診療録管理学会、'82国際モダンピタルショウ等の開催が提案され承認
- 2) 海外PR誌に関する件
日本病院会雑誌(英文誌)を来年度から年1回発行し、その費用は、国際交流基金から捻出、予算は150万円前後とする
- 3) '82国際モダンホスピタルショウの費用に関する件
費用80万円の予算で行なうことに決定
- 4) 会員の入退会について
正会員1件の入会と正会員2件の退会、賛助会員1件の入会と賛助会員1件の退会が承認
- 5) 委員会の開催結果について
報告を了承
- 6) 未加入企業(賛助会員)に対するDM発送について
賛助会員拡大の一策として、未加入60社をリストアップして入会勧誘のDMを発送
- 7) 地方税法の改正による税負担増に対する要望書について
12月3日、自民党税制調査会に要望書を提出
- 8) IHFからの来幹文書について
吉岡観八副会長がIHF総会において常任理事に選出された旨の文書が届いた
- 9) 1982年AHFスタディーツアー開催案内状について
57年5月17日～21日の5日間、韓国で開催予定
- 10) 1982年特別視察研究会開催について
57年4月18日～29日の12日間、米国(ニューヨーク、デトロイト)で開催予定
- 11) 優良自動化健診施設推せん結果について
5施設が推せんされ、また、短期人間ドック健診料が57年度から57,000円になる

第12回常任理事会

12月22日(火) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度臨時会費に関する件
57年度臨時会費は、200床まで一律20,000円、201床以上一律30,000円で請求し、収納率75%とみて、31,700,000円になることで承認
- 2) 昭和57年度予算(案)に関する件
57年度予算の収入合計は、臨時会費31,700,000円を加え297,000,000円で承認

3) 医療危機突破対策に関する件

病院医療危機について効果的な突破対策を今後継続協議することで承認

4) 会員の入退会について

賛助会員入会 1 件の承認

5) 国際委員会委員の追加について

樋口康子氏（日本赤十字社）1 名の承認

6) 委員会の開催結果について

報告を了承

7) 第 5 回日本診療録管理学会会計報告及び監査報告について

収支は、5,588,887円であるむねの報告を了承

8) 議員団病院視察結果について

公明党議員小平芳平、鈴木康雄の両氏が、都内の 3 病院を視察したむねの報告、了承

第13回常任理事会

1 月 9 日（土） 日本病院会会議室

1) 医療危機突破対策に関する件

効果的な突破対策を今後継続審議することで了承

2) 勤務医師・パート医師給与の適正化に関する件

源泉所得税の実態を病院会ニュース等に掲載し、会員に啓蒙する

3) 会員の入退会について

正会員退会 5 件、賛助会員退会 1 件が承認

4) 短期人間ドック実施指定病院について

恵寿病院（石川県）の指定を承認

5) 事務職員の任免について

平澤和彦を職員として採用（1 月 4 日入社）

6) 委員会の開催結果について

報告を了承

7) 医療制度委員会の中問答申について

報告を了承、委員に有澤源蔵常任理事、深瀬邦雄（日比谷病院長）氏の承認

第14回常任理事会

1 月 19 日（火） 東京アメリカンクラブ

1) 昭和57年度予算(案)に関する件

原案どおり承認

2) 昭和56年度補正予算(案)に関する件

原案どおり承認

- 3) 公私病院連盟との57年度合同調査実施に関する件
結果表の一本化、発表形式の連名が承認
- 4) 仮称「病院診療報酬適正化推進会議」の設置に関する件
提案どおり承認
- 5) パート医師の報酬についての要望書に関する件
医科大学学長、附属病院院長、各科、厚生大臣、文部大臣に提出することが承認
- 6) (社)日本病院会賛助会員新年賀詞交歓会開催要領に関する件
要領の検討、了承
- 7) 会員の入退会について
正会員入会2件、退会2件、賛助会員入会3件の承認
- 8) 日本病院学会評議員の追加について
茨城県 戸川 潔(茨城県立中央病院院長)氏の承認
- 9) 委員会の開催結果について
報告を了承
- 10) 税制問題懇談会(仮称)の開催について
1月29日、午後1時～3時、於食糧会館での開催決定
- 11) 勤務医師・パート医師給与の適正化について
継続審議で了承

第15回常任理事会

2月13日(土) 日本病院会会議室

- 1) 昭和57年度特別会計予算(案)に関する件
原案どおり承認
- 2) 昭和58年度の経理展望に関する件
経費節減等の実施などの報告了承
- 3) 会員(正会員・賛助会員)の増強策に関する件
役員にA.B会員の勧誘を願うことで承認
- 4) 「病院診療報酬適正化推進会議」の運営に関する件
内規の検討、承認
- 5) 昭和57年度研究研修会の具体策に関する件
教育委員会において細部検討することで承認
- 6) 医薬品の効果の実態に関する件
医療費対策特別委員会において検討することで了承

- 7) 会員バッヂ、会員証制定に関する件
バッヂを作成は承認、会員証については継続検討となることでした承
- 8) 会員の入退会について
正会員退会6件、賛助会員入会3件と退会1件が承認
- 9) 諸規定検討委員会の設置について
設置が承認され、委員として野村秋守・大野松次・榎本敏雄・池谷巨・高山瑩各常任理事
財津晃代議員会議長、上畑邦朝事務局長で構成することが承認
- 10) 短期人間ドック実施指定病院について
竹田総合病院（福島県）の承認
- 11) 委員会、全国総合（研）、セミナーの開催結果について
報告を了承
- 12) 賛助会員新年賀詞交歓会の開催結果について
報告を了承
- 13) 第2回医療事故講座の開催結果について
報告を了承
- 14) 厚生大臣との面談結果について
内藤景岳会長、大野常任理事、遠藤香苗理事、玉置英夫（玉置病院長）が面談し、病院経営実態を報告
- 15) 税制問題懇談会の開催結果について
報告を了承
- 16) 第3四半期会計報告及び監査報告について
報告を了承
- 17) パート医師に関する要望書について
提出することで承認
- 18) （社）日本病院会支部の報告について
報告を了承

第16回常任理事会

3月13日（土） 日本病院会会議室

- 1) 病院医療のP.R.に関する件
病院医療への理解・認識を求めるとの報道関係者との懇談することなどが承認
- 2) 昭和57年度社会貢献表彰候補者の推せんに関する件
候補者を病院会ニュース・身近かな人を推せん願うことでした承

3) 理事会運営に関する件

常任理事会は原則として月1回(第4週土曜)とし、会議終了後、懇談会を開催することで承認

4) 処方せん料等要望書に関する件

日本病院薬剤師会、日本精神病院協会、日本医療法人協会、全日本病院協会にも呼びかけ、連名で要望することで了承

5) 会員の入退会について

正会員5件の入会、4件の退会と賛助会員6件の入会、5件の退会が承認

6) '82オフィス・オートメーション・シンポジウム共催名義使用について

応諾することで承認

7) 自衛消防組織検討委員会の開催結果について

配布された参考資料のとおり報告、了承

8) 委員会の開催結果について

報告を了承

9) 病院税制問題懇談会の開催結果について

第2回懇談会の結果とパート医師の報酬についての要望書を各大学、医局教授に郵送したむねの報告、了承

10) 病院長セミナー代替の座談会開催結果について

会長、副会長、広報委員長の6名で「これからの日病はどうあるべきか」を会談したむねの報告、了承

11) 通信教育(メディカルクラーク・診療録管理)のスクーリング、試験について

報告を了承

12) 無料職業紹介事業について

求職71件、求人211件、就職36件の報告、了承

13) 病院診療報酬適正化推進会議開催について

推進会議の結成と今後の運動方針について4月3日(土)開催するむねの報告、了承

14) 内保連第59回例会記録について

記録を朗読し、了承

15) 短期人間ドック実施指定について

大和郡山総合病院(奈良県)判定4床が承認

16) 中小企業事業承継税制懇談会についての要望について

大蔵大臣に提出したむねの報告、了承

17) 医療金融公庫と他公庫との総合案に対しての要望書について

第二臨調役員と第四部会に送付したむねの報告、了承

第3. 陳情・要望

- 4月21日 薬価基準引き下げと医療費改定の同時実施を推進するため厚生大臣等に要望書を提出。
- 5月27日 国税、地方税関係の昭和57年度税制改正事項をまとめ厚生大臣等へ提出
- 6月13日 6月1日の医療費改定が実質的に引き下げとなった結果、即時再改定の声明書を厚生大臣等に提出。
- 9月16日 非常勤医師の給与に関する源泉所得税の徴収について、各病院団体と同調し、大蔵大臣等へ要望書を提出。
- 11月4日 全国病院開設者、病院長集会を開催し、病院診療報酬の原価割れ点数等の即時是正を、厚生大臣等へ要望。
- 12月4日 地方税法見直しに際し、改正要望事項をまとめ、自民党税制調査会に要望書を提出。
- 2月23日 医療金融公庫の統合案に対し、公庫存続を第二臨時行政調査会第4部会等へ要望書を提出
- 3月9日 パート医師の報酬について（お願い）、本会をはじめとして全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会4団体連名で全国国公立大医学部医科大へ送付
- 3月10日 事業承継税制について、上記4団体とともに、大蔵大臣へ要望書を提出
- 3月29日 代議員会、総会の声明書を日医代議員へ送付

第4. 広 報

日本病院会ニュース

号数	発行日	主 な 記 事 内 容
192号	4月10日	1) 「医の光と波」をテーマに一第7回日本病院学会(9月4・5・6日)一般演題募集始まる 2) 出品は82社、ホスピタルショウ開幕へ 3) 診療報酬と医療原価(その2)一副会长 河野 稔 4) 飽食の中での病院食一厚生年金関係施設老人大学健康教室栄養指導員 松本重子 5) 衛生検査所と無資格医療検査一越谷市立病院臨床検査科技師長 近藤弘司 6) 婦長に期待するもの一東京都済生会中央病院看護科長 船場宮子 7) 「倫理綱領指針」制定にあたって(その1)一新千里病院長 吉岡観八
193号	5月10日	1) 薬価と医療費同時改定を一理事会が要望、決議 2) 医療費、実質審議へ一薬価改定は6月実施、中医協総会 3) 春の叙勲、褒章に一若月氏ら栄えの受章 4) 診療報酬と医療原価(その3)一副会长 河野 稔 5) 一部反対意見も一老人保健法案で答申、社保審・制度審 6) 春闘におもうこと一佼成病院人事課長 岡野 博 7) 法と現実のはざまで一聖路加国際病院薬局長 片山孝一 8) 「倫理綱領指針」制定にあたって(その2)一新千里病院長 吉岡観八
194号	5月25日	1) 代議員会・総会で内藤会長あいさつ「病院団体の団結を」55年度決算を承認 2) '81ホスピタルショウ開く、延べ4万人が入場 3) 老人保健法案国会へ一外来1か月500円、入院1日300円 4) 薬価18.6%引き下げ、6月1日から実施 5) 厚生大臣に村山達雄氏 6) 日本病院会56年度研究会予定表 7) 医療部門とロボット(その3)一都立墨東病院放射線科技師長 妹尾昭一 8) 目と手のはたす役割一日本専売公社東京病院看護部長 須谷照子 9) 「倫理綱領指針」制定にあたって(その3)一新千里病院長 吉岡観八

- 195号 6月10日
- 1) 医療費改定6月実施、今回の実質ダウンの改定で病院危機は乗り切れるか—副会長 河野 稔
 - 2) 理事欠員補充選挙のお知らせ
 - 3) 惨!! 未曾有の低アップ—常任理事 大野松次
 - 4) 診療報酬改定6月実施、中医協答申
 - 5) 第7回日本病院学会、特講・シンポなど決まる
 - 6) 未来の夢を画く学会に一学会長 岡本道雄
 - 7) 多くの問題点を指摘—医療費改定で社保委開く
 - 8) 解釈めぐり質疑応答—医事研委員、厚生技官と
 - 9) 税務相談のすすめ—有澤総合病院長 有澤源蔵
- 196号 6月25日
- 1) 迫る病院存続の危機—倒産・廃院が急増
 - 2) 医療費改定で声明書—常任理事会で決議
 - 3) 東京・大阪で800人—医療費改定説明会開く
 - 4) 医界は石油ショック以来の大混乱—大阪赤十字病院長 二本杉皎
 - 5) 付添看護は解決できるか—東京通信病院長 北原哲夫
 - 6) 57年度税制改正の要望、救急医療準備金制度など
 - 7) 検査技師法におもう—順天堂大学付属病院中検技師長 藤沢武吉
 - 8) 薬剤過誤とその対策(その1)—国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 9) 厚生年金基金制度と老後保障について(その1)—病院管理委員会、年金・厚生小委員会
- 197号 7月10日
- 1) 日薬連と会談、病院財政危機のときに何故納入薬価を上げるか
 - 2) 人間ドック学会開幕へ、プログラム・日程決まる
 - 3) 第5回診療録学会、日程・講師等決まる
 - 4) 新聞報道の真実性について—長浜赤十字病院長 財津 晃
 - 5) 提言、何かが欠けている—和歌浦中央病院長 遠藤香苗
 - 6) 第22回人間ドック学会プログラム
 - 7) 第5回日本診療録管理学会日程表
 - 8) 薬剤過誤とその対策(その2)—国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 9) 医療部門とロボット(その4)—都立墨東病院放射線科技師長 妹尾昭一
 - 10) 国際交流におもう(上)—河野臨床医学研究所理事長 河野稔
 - 11) 随筆6月21日の日記—名鉄病院長 阿久津 慎
- 198号 7月25日
- 1) 病院団体代表者会議開かる—「全国大会」へ始動、25団体が集結、決意表明

- 2) 報道2社と対談、病院医療に理解示す
 - 3) 病院破産一警鐘は大きくなっている—国保旭中央病院長 諸橋芳夫
 - 4) 常任理事に二本杉、高山、北原の各氏、新理事に丹羽氏ら選出
 - 5) 第7回日本病院学会日程・プログラム決まる
 - 6) 国際交流におもう(下)—河野臨床医学研究所理事長 河野 稔
- 199号 8月10日
- 1) 病院医療危機突破全国大会開催へ—病院医療費の即時再改定を要求
 - 2) 今回の医療費改定によせて—会員投稿
 - 3) 「ヨーロッパの医療事情」印象記(上)—府中病院長 岸口 繁
 - 4) 薬剤過誤とその対策(その3)—国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 5) 人づくり—河野臨床医学研究所 河野 稔
 - 6) 研究会を開催して—薬価基準改定に伴う医薬品購入価格調査(用度研)、休暇、勤務時間等に関心(庶務人事研)
- 200号 8月25日
- 1) 8・26、危機突破全国大会向け、各部門で代表意見—技術料・人件費の正当評価もとめ
 - 2) 連名要望を呼びかけ、非常勤医師の源泉税合理化で
 - 3) 診療録学会開幕へ、全日程・プログラム決まる
 - 4) 日薬連と会談、病院財政危機のときに何故納入薬価を上げるか(座談会)
 - 5) 「ヨーロッパの医療事情」印象記(下)—府中病院長 岸口 繁
 - 6) 薬剤過誤とその対策(その4)—国立小児病院薬剤科長 菅山修二
- 201号 9月25日
- 1) 各職能代表も参加、病院医療費再是正を—病院医療危機突破全国大会開く
 - 2) 延べ4,000人が参加、第7回日本病院学会開く
 - 3) 幅広い参加で盛会、第22回人間ドック学会も
- 202号 10月10日
- 1) 公取提訴にふみ切る—納入薬価値上げに操作、製薬協にヤミカルテルの疑い
 - 2) 33団体の連名集まる、パート医師源泉合理化へ前進
 - 3) 改定の積算根拠示さず—公明党小平氏質問に政府答弁
 - 4) 医療費改訂の意味と今後の医療システムの方角を考える(上)—牧病院長 牧安孝
 - 5) 病院勤務医の時代—藤市立病院長 池谷 亘
 - 6) 栄養士活動と診療報酬点数表の改正(上)—慶応大学病院食養課 山下光雄
 - 7) 医療費改定と病院薬剤—日本赤十字社医療センター—薬剤部長 真田幸良
 - 8) 日本病院学会に参加して—北品川総合病院看護部 遠藤早苗

- 203号 10月25日
- 1) 東京都支部設立される一和歌山に次いで結成、支部長に河野稔氏を選出
 - 2) 請願・陳情の実施へ、原価割れ診療報酬是正運動
 - 3) 600名が参加、第5回診療録学会開く
 - 4) 韓国から病院医療研修に一杏林大学医学部付属病院医事課長 徳永貴士
 - 5) 医療費改訂の意味と今後の医療システムの方向を考える(中)一牧病院長 牧安孝
 - 6) 座談会、看護婦・助産婦不足を解消するには
 - 7) 薬剤過誤とその対策(その5)一国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 8) 栄養士活動と診療報酬点数表の改正(下)慶応大学病院食養課 山下光雄
 - 9) 15回生44名が卒業、診療録管理通教の認定式
 - 10) 老いは淋し一顧問・東陽一

- 204号 11月10日
- 1) 原価割れ是正要求を決議一公私病連と共催、全国病院開設者・病院長集会で、「大同団結」へ一歩、中医協に病院委員会設置求める
 - 2) 「原因は放漫経営等」病院倒産増に村山厚相答弁
 - 3) 公取委製薬16社立ち入り、薬価ヤミ協定の疑い濃厚
 - 4) 第5回日本診療録管理学会開く
 - 5) 助産婦不足の実情と対策一助産婦 勝島喜美
 - 6) 「経費節減」で論文募集、AHFスタディツアーで
 - 7) 厚生年金基金制度と老後保障について(その2)一病院管理委員会、年金・厚生小委員会
 - 8) 医療費改訂の意味と今後の医療システムの方向を考える(下)一牧病院長 牧安孝

- 205号 11月25日
- 1) 病院財政悪化基調変わらず一改定後医療費の伸びは鈍化
 - 2) 昏冥財政の因を衝く一常任理事 大野松次
 - 3) 第8回日本病院学会長の横顔一河井 博
 - 4) 病院経営に思う一岐阜市民病院長 水川 勇
 - 5) 老人保健法案、修正可決、参院へ
 - 6) 全国総合第一グループ研究会を開催して、11月5・6日名古屋で4部門合同
 - 7) 薬剤過誤とその対策(その6)一国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 8) 厚生年金基金制度と老後保障について(その3)一病院管理委員会、年金・厚生小委員会

- 206号 12月10日
- 1) 医療費問題特別委員会発足さる一適正医療体制を追求「老人保健法」にも対処
 - 2) 報酬適正化全国組織結成で一致、五十嵐公私病連会長と懇談
 - 3) 病院診療報酬適正化全国組織の胎動に寄せて一常任理事 大野松次
 - 4) 自民税調に要望、地方税法改正の動きに
 - 5) 新厚相に森下元晴氏
 - 6) 慢性疾患指導料等算定扱いで通知、厚生省
 - 7) 今日の医療を考える、変革下の安定と効率化一顧問 左奈田幸夫
 - 8) 薬剤過誤とその対策(その7)一国立小児病院薬剤科長 菅山修二
 - 9) 囲碁のすすめ一蕨市立病院長 池谷 亘
 - 10) ナースバンク活動を開始、看護協会東京都支部で
 - 11) シルクロードの旅、敦煌ロマン一樋口 進
 - 12) 5月ソウルで、AHFスタディツアー
- 207号 1月10日
- 1) 年頭所感一会長内藤景岳、厚生大臣森下元晴、医務局長大谷藤郎、保険局長大和田潔、代議員会議長財津 晃、和歌山県支部長浜光治
 - 2) シルクロードを旅して、リーダーシップを想う(上)一河野臨床医学研究所 河野 稔
 - 3) すすむ医学と医療人の倫理一第8回日本病院学会会長 丸毛英二
 - 4) 東京医科大学八王子医療センターの見学(定例病院診療研)、「東海地震」警戒宣言発令時の対応について(庶務人事研)
 - 5) 仁右衛門島の一局、大野三段思い出の地で快勝
 - 6) アメリカ大都市のヘルスケア視察研、4月、IHF主催で
 - 7) '82ホスピタルショウ、5月、東京・晴海で
- 208号 1月25日
- 1) 病院診療報酬適正化推進会議の結成へー「会議」の名で統一
 - 2) 「本年もよろしく」賛助会員と賀詞交歓
 - 3) 57年度役員会、学会等の日程
 - 4) シルクロードを旅して、リーダーシップを想う(下)一河野 稔
 - 5) 西ドイツ救急医療とプラリマリーケア(上)一九段坂病院外科 波多野 誠
 - 6) 旅の出会い(シルクロードの旅)一河合民助
 - 7) 第22回国際病院連盟学会に出席して(上)一新千里病院長 吉岡観八
 - 8) 東京都がん検診センター(病院診療研)、薬品購入価実態調査(京都・全国総合用度研)
 - 9) 「2年間がんばって……」事務長通教スクーリング始まる

10) 本格的医療人材銀行が発足、病院システム開発研究所で

- 209号 2月10日
- 1) パート医師問題で協議、全日病首脳と一税込契約を大学へ要請、病院団体あ
げて取り組みへ
 - 2) 病院経営の実態を説明、森下厚生大臣と面談
 - 3) 改革を検討「医療法」医療制度委が中間答申
 - 4) 医療法の検討経過について一医療制度委員長 小西 宏
 - 5) 西ドイツ救急医療とプライマリーケア(下)一九段坂病院 波多野 誠
 - 6) 第22回国際病院連盟学会に出席して(中)一新千里病院長 吉岡観八
 - 7) 「診療録」に思うこと一第6回日本診療録管理学会長 犬塚貞光
 - 8) 基準看護の問題点一東京日立病院総婦長 木村千枝子
- 210号 2月25日
- 1) 前例ない改定後の悪化一病院運営実態調査まとまる、公私病連と協力調査
 - 2) 「ベア凍結」の考え示す、東京都支部、今春闘向け
 - 3) 主張一常任理事 榎本敏雄
 - 4) 新体制下の病院管理経営、生きぬくための方策、顧問、左奈田幸夫
 - 5) 制度は変えられないか一常任理事 高山壁
 - 6) 第8回日本病院学会、マラソンシンポ等企画すすむ、演題応募締切は3月末
 - 7) 第22回国際病院連盟学会に出席して(下)一新千里病院長 吉岡観八
 - 8) 和歌山県病院協会会館が落成
 - 9) 厚生年金基金制度と老後保障について(その4)一病院管理委員会年金、厚
生小委員会
- 211号 3月10日
- 1) 「病院診療報酬適正化推進会議」動き出す。4月3日全国団体と結成会議
開催
 - 2) パート医師税込契約を、大学等へ一万通送付、全日病等と4団体連名で
 - 3) 第6回日本診療録管理学会、開催概要決まる
 - 4) 一般演題は4月末まで、青森・23回人間ドック学会
 - 5) 投稿、パート医師源泉問題、民間病院における乙欄所得税の矛盾
 - 6) 座談会、医療の本質と矛盾、病院危機を乗り越えるため(前)
 - 7) 厚生年金基金制度と老後保障について(その5)病院管理委員会、年金・
厚生小委員会
 - 8) 第二臨調へ要望提出、医療金融公庫存続を
 - 9) 海外向け雑誌を発行
 - 10) 57年度日本病院会海外視察研究会参加募集ご案内

11) 社会貢献者の推せん、日本顕彰会からご案内

- 212号 3月25日
- 1) 日病・全日病・医法協・日精協、4団体が共同歩調、経営改善に強い力、パート医師・相続税問題で連名要望を出す
 - 2) 57年度役員会日程変更のご案内
 - 3) 医務局総務課長・山内氏と懇談
 - 4) 「病院長セミナー」座談会、これからの日病はどうあるべきか
 - 5) 申し込みは早目に、事業所内保育施設助成のご案内
 - 6) 医師中心に36件決定、56年無料職業紹介事業
 - 7) 座談会、医療の本質と矛盾、病院危機を乗り越えるため(後)
 - 8) 合同研の意義を評価、研究会委員長会開く
 - 9) 病院恐かつ常習者にご注意
 - 10) 論文発表者を募集、23回国際病院学会、スイス

第5. 委 員 会

1. 教育委員会

1. 開催回数 教育委員会 2回

研究会委員長会 10回（グループ打合せ会を含む）

2. 延出席者数 教育委員会 11名

研究会委員長会 76名

3. 協議項目

1) 昭和56年度全国総合研究会について

2) 昭和57年度教育活動について

- 1) ① 昭和56年度全国研究会は全国総合研究会との名称のもとに年間4回開催することとした。
② 各研究会を4グループに分ける（1グループ5研究会程度）
③ 4グループ毎に打合せ会を開催して、開催期日、開催地、演題等を決める。またそのグループの研究会に参加するかどうかはグループ内で調整、決定する。
④ 定例研究会については従来通り定期的な運営により開催する。
⑤ 第一線リーダー研修会は従来通り定期的な運営により開催する。
⑥ 各研究会の委員に事務関連作業の調整等に関し、事務局担当者が事務局委員として参加する（4月11日（土）常任理事会決定）

以上の方針にもとづいて、全国総合研究会のグループ分けの表（当初案）が下記のように策定された。

第一グループ

1. 病院診療研究会
2. 看護管理研究会
3. 看護研究会
4. 薬事管理研究会
5. 病院管理総合研究会

第二グループ

1. 栄養管理研究会
2. 調理研究会
3. 放射線研究会
4. 臨床検査管理研究会
5. 診療録管理研究会

第三グループ

1. 事務管理研究会
2. 医事研究会
3. 庶務人事研究会

- 4. 会計経理研究会
- 5. 労務研究会
- 第四グループ
 - 1. 用度研究会
 - 2. 施設研究会
 - 3. ハウスキーピング研究会
 - 4. 図書室研究会

グループ別打合せ会により、実施方針が下記のように決められた。

第一グループ 看護管理、看護、薬事管理、病院管理総合研究会、11月・名古屋

第二グループ 放射線研究会、10月・京都

第三グループ なし

医事研究会の一泊研修会を定例研究会に組入れて、10月・湯河原で開催。

第四グループ ・用度研究会は医事研究会との合同を企図したが、単独で開催となる。11月・京都

・施設、ハウスキーピング、図書室研究会、2月・東京

このほか総婦長セミナー（8月・東京）、事務長セミナー（2月・東京）をそれぞれ実施の運びとなった。

定例研究会についての収支は黒字基調で、このうちホスピタルショウ委員会の要請を受けて5月の'81モダンホスピタルショウ開催期間に、医事研究会、看護管理研究会のそれぞれ1日研究会を開催し、ホスピタルショウの見学者増加に寄与した。全国総合研究会についての収支ではやや赤字の状態であったが、合同による各職域間の相互理解を深めた面もあり、今後の研究会の企画についての研究課題ともなった。

セミナーについては、総婦長セミナー、事務長セミナーともそれぞれ盛況を呈した。年間を通しての全体の収支状況は均衡をみせたといえる。

- 2) ① 定例研究会は従来通り関東地区において開催する。
- ② 全国研究会、セミナー等については、各研究会において企画立案し、合同の希望のある研究会においては相互に調整することとする。なお会の経営収支の実態をふまえて、教育委員会において修正し収支相償うように開催地等の選定を行うこととした。

2. 臨床予防医学委員会

- 1. 開催回数 4回（小委員会3回を含む）
- 2. 延出席者数 41名
- 3. 協議項目
 - 1) 短期人間ドック認定委員委嘱について中部地区担当同認定委員浜松赤十字病院山田鉄三郎

院長逝去のため、同院後任益頭尚道院長に認定委員を委嘱。

2) 胆のう検査における造影剤ビロプチン服用禁止に関して——人間ドック手帳の胆のう検査欄訂正、ビロプチン服用を認めての解説であったので、この検査方法の改正による新しい解説が必要である。笹森典雄委員に起稿を依頼し、改正の検査説明を行う。

3) 全国人間ドック実施指定病院の実態について人間ドック指定病院 330 中の報告病院 260 の実態につき、鈴木豊明委員が分析を行う。短期人間ドックを行うに適当か否かの総合的

分析がされた結果の評価は	優	106	40.8 %
	良	62	23.8 %
	可	57	21.9 %
	未基準	35	13.5 %

となり、未基準については今後の善処を要する。

4) 委員長の交替

堀内光委員長職務多忙により辞任、樫田良精副委員長の委員長就任。

5) 人間ドック学会会則の改正案について現行学会会則は時流にそぐわない面もあり学会長他に運営上迷惑をかけていること、また人間ドック向上のため学会活動を更に積極的に行うことを考慮し会則の改正にとりくむことの可否について検討。

6) 次々期第24回人間ドック学会長の人選について

吉川政己 東京警察病院院長受諾

7) 新規指定短期人間ドック病院および同指定自動化健診施設数について

病院 博慈会記念病院以下 10病院

施設 南大阪健診センター以下 10施設

8) 人間ドック学会評議員の推せん

第21回人間ドック学会長

大阪赤十字病院院長 二本杉 皎

第20回人間ドック学会長

聖路加国際病院前院長 菅原 虎彦

の両氏を学会評議員に推せん。

9) 健保連との昭和57年度短期人間ドック料金および自動化健診料金の契約交渉調印。

4. 総 評

長年にわたり日病臨床予防医学委員会のためご尽力頂いた済生会中央病院の堀内光院長には公務多忙により8月末をもって辞任された。これまでのご協力に厚く謝意を表し、また後任の関東中央病院の樫田良精院長には、ご繁忙に拘らず受諾頂き委員長として精力的にご高配を頂いている。

また、第22回人間ドック学会長としても特段の配慮を頂き、ドック学会（大会）を盛大に有意義に開催された。

3. 医療制度委員会

1. 開催回数：10回

（ 56. 5. 27 / 6. 15 / 7. 20 / 8. 24 / 10. 12 / 11. 16 / 12. 21 / 57. 1. 18 /
2. 15 / 3. 19 ）

2. 参加人数：10回合計55名

3. 議題：(1)医療法の改正

(2)病院と勤務医師

(3)委員増員

4. 委員会報告 (1) 57年1月18日医療法の検討結果についての中間答申を発表。

国民の生命と福祉を守る医療制度の根幹となるべき法のあり方として具備せねばならない要件として、6項目（医療倫理の高揚、医療従事者の養成と確保、生涯教育の徹底、地域保健医療計画における包括医療体系の確立、医療機関の機能の分担と連携、合理的医療経済の確立）を示した。

(2) 勤務医師の実態把握をはじめとして10項目以上について57年度に検討する。

(3) 私的病院側より新しく委員の増員を検討する。

4. 診療録管理通信教育委員会

1. 開催回数 2回

2. 延出席者数 12名

3. 協議項目

1) 卒業、進級試験の合否について

2) 一部カリキュラムの検討

3) 卒後研修について

5. メディカルクラーク通信教育委員会

1. 開催回数 2回

2. 延出席者数 12名

3. 協議項目

1) 第1回 4月6日(月) 於鉄道会館ルビーホール11F 菊の間

① 昭和56年度の教育実施予定について

○ 実施の要領は概ね前年と同様とする。

- 第5回認定証授与式は10月9日(金)とする
- 第5回認定審査委員会は9月12日 17:00からとする。
- 第5期生後期試験は8月23日とする。
- 第6期生前期スクーリングは8月20日～26日までとし
8月20日～22日を東京
8月24日～26日を京都で実施する。

② 前期スクーリングの時間割決定

2) 第2回 9月12日(土) 於鉄道会館ルビーホール11F 菊の間

① 第5回認定審査について

- 第5回認定者 57名(延長受講生2名、第5期生55名)
- 認定不合格 4名

② 第5回認定証授与式

- 10月9日(金) 17:00～19:00 ダイヤモンドホテル

③ 第6期生 試験・スクーリングの日程について

- 試験 日: 2月14日(日)
- 後期スクーリング: 2月11日～13日: 京都
2月15日～17日: 東京とする。

6. 事務長養成課程通信教育委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 11名
3. 協議事項

4月30日 於日本病院会会議室

1) 昭和56年度教育実施計画について

- 第2回生最終試験: 6月6日(土)滋賀県大津
- " 修了認定式: 7月18日(土)東京都内
- 7月の試験・スクーリング: 7月5日～18日の期間中に実施
試験 日: 7月5日(日)第3回生第1年次後期試験
スクーリング: 7月6日(月)～11日(土)第3回生第2年次前期
7月13日(月)～18日(土)第4回生第1年次前期
会 場: 聖路加国際病院第2記念館

2) 7月のスクーリング時間割りにについて

- 調整案を作成し確認する

- 3) 針谷先生より「病院財務管理」の授業内容と課目名を吻合させたき旨発言されたが、補助教材を使用することで課目名は現状のままとした。
- 4) 「診療管理」は今回（第3回生）より左奈田幸夫氏に委嘱することを決定（小野田敏郎氏辞任による）

7. 学術委員会

1. 開催回数 13回（英文雑誌編集会議1回を含む）
2. 延出席者数 102名（ ” ” ）
3. 協議項目
 - 1) 日本病院会雑誌 '81 6月号～'82 5月号の編集
 - 2) ” '81 7月号～'82 6月号の企画
 - 3) ” 掲載広告の料金改訂
 - 4) 英文雑誌の制作、編集
4. 雑誌56年度（'81.4～'82.3）主要掲載記事
 - （4月号）
 - グラフ・ヘリポートのある病院
 - 高齢化社会とわが国の人口問題（篠崎信男）
 - 病院勤務医の将来像（浅井一太郎）
 - （5月号）
 - グラフ・神戸市立中央市民病院
 - リモートセンシング技術の動向（小坂義裕・石坂工児）
 - 随筆・済生会派遣のカンボジア難民救援医療に参加して（酒井和雄）
 - （6月号）
 - グラフ・'81国際モダンホスピタルショウ
 - 昭和55年度・研究会報告
 - 病院危機の現状分析と予測—中小病院の視点から（織本良子）
 - （7月号）
 - グラフ・'81国際院会のはたらき
 - 多変量解析法の病院経営分析への応用（折笠秀樹・三宅浩之）
 - 病院給食における食中毒の予防と対策及び発生例について（篠原 楷）
 - 病院給食管理の基本的問題点（最勝寺重芳）
 - （8月号）
 - グラフ・第21回病院視察研究会

院内Peer Review Committee について(井上昌彦)

銷夏随筆24篇

(9月号)

グラフ・アメリカの医療機関

これからの中小胃腸病院のありかた(平塚秀雄)

看護関係雑誌記事索引の作成と看護文献の探し方について(図書室研究会)

(10月号)

グラフ・第4回米国診療録管理視察

第22回人間ドック学会特集—特別講演・パネルディスカッション・シンポジウム・一般演題抄録

(11月号)

第7回日本病院学会特集号

学会長講演・一般演題抄録・座談会

(12月号)

グラフ・西ヨーロッパの病院

病院管理からみた診療録の重要性(澤崎博次)

診療記録の管理利用の現状について(蔵山幹男 他)

医療費制度についての疑問(何故患者さんから健保料金以外の費用を受取ってはいけないのか)(井上昌彦)

看護管理—業務管理を中心として—(赤岡茂子)

米国における病院情報システムの実情(三宅浩之)

(1月号)

グラフ・第22回国際病院学会

世界と日本の医療の動向(行天良雄)

医療と医療機器材について(臼田正堅)

整形外科病院におけるカウンセリングと問診の技術(高山 瑩 他)

(2月号)

グラフ・西独救急医療とプライマリーケア

私の行なってきた病院経営—私的病院の生きる道—(第7回日本病院学会パネルディスカッション)

第5回日本診療録管理学会・指定課題「病院における診療録の管理方法」抄録・一般演題抄録

混注を中心とした病棟薬剤の管理(海老沼 広)

(3月号)

グラフ・ニューズ・ランドの病院

高齢化社会と医療(第7回日本病院学会シンポジウム)

医療の進歩に伴う病院の諸問題(第7回日本病院学会シンポジウム)

医療費改悪を乗り切る病院経営(河野 稔)

8. 広報委員会

1. 開催回数 5回

2. 延出席者数 43名

3. 協議項目

1) 日本病院会ニュースの発行方針について

2) 座談会・懇談会の開催

「看護婦・助産婦不足を解消するには」「日本製薬団体連合会との会談」「マスコミとの会談」「医療の本質と矛盾」

3) 特別報告、イタリア、西ドイツの医療費問題と医療制度

4) 57年度予算案について

5) 広告料金改正について

6) 賛助会員社名広告掲載について

7) 賛助会員対策について

8) 1めんの論評執筆体制について

9) 3～4めんのエッセイ執筆体制について

10) 今後の座談会のテーマについて

11) ニュースの文字を大きくすることについて

12) ニュースを非会員へ配布することについて

4. 総 評

56年6月の医療費改定後、さらに病院財政が悪化し、倒産、廃院が急増した背景をふまえ医療費対策の広報活動に力を入れた。対外的には日薬連と会談し、薬価基準引下げ後病院への納入薬価を上げてきたことに抗議してのちの公取委提訴(製薬協)に発展した。またマスコミとも対談し、病院医療への理解を求めた。さらに問題解決のため、病院界の大同団結をめざし、共通課題などで各団体との協議を重ねるとともに、パラメディカルなど病院人の総力を結集する方向ですんだ。

9. 情報センター委員会（病院情報センター運営委員会）

1. 開催回数 10回
2. 延出席者数 63人
3. 協議項目
 - 1) 病院向け教育用ビデオテープの作成について
 - 2) '82国際モダンホスピタルショウの協力について
 - 3) コンピュータ導入利用状況調査について
 - 4) 「診療記録の管理、利用の現状について」の出版について
 - 5) 「病医院へのコンピュータ導入の早わかり」の出版について
 - 6) (財)医療情報システム開発センター、厚生省への健保点数マスター作成
販布の要望について
 - 7) コンピュータゼミ（仮称）の開催について
 - 8) その他
4. 総 評 当初、病院情報センター運営委員会と技術協力委員会をそれぞれ開催していたが、技術協力委員の参画によりより幅広い意見を求めるため、合同委員会とし開催した。

また、隔年調査を行なっているコンピュータ導入利用状況調査については、訪問調査（28病院）アンケート調査（1770病院）を行ない、57年4月集計を
目途に現在作業をすすめている

また、出版関係については「診療記録の管理、利用の現状について」「コンピュータ導入の早分り」の2冊を出版した。

10. 社会保険委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 12名
3. 協議項目
 - 1) 医療費改定説明会の開催について
 - 2) 日本病院会ニュース（医療費改定に伴う今後の問題点と対策）への掲載
について
 - 3) 医療費改定に伴う要望について
 - 4) その他
4. 総 評 本年6月1日の医療費改定は実質的な医療費引き下げとなり病院経営に及ぼ
す影響は大となった。

本委員会では、医事研究会の協力を得6月9日東京地区421名、6月10日大
阪地区352名をもって、医療費改定説明会を実施、厚生省、大阪府の担当官

を講師に招き開催した。

また、今回の医療費改定につき、種々の適用上の問題が生じ会員病院宛アンケートを取り、内保連を通じ、是正の要望書を提出した。

11. 医療経済委員会

1. 開催回数 3回
2. 延出席者数 15名
3. 協議項目
 - 1) 昭和57年度税制改正要望事項について
 - 2) 昭和57年度税制改正要望事項追加項目について
 - 3) 病院会計準則について
 - 4) 昭和57年度税制改正に対する今後の対応
 - 5) 昭和58年度税制改正の要望について
 - 6) その他
4. 総 評

昭和57年度の税制改正要望事項として19項目におよぶ要望事項を提出、その後重点要望事項として「非常勤医師の源泉所得税徴収に関する要望」を全国33病院団体共同で提出。

しかしながら厳しい経済情勢を反映して、要望実現項目は1つにとどまった。また、地方税の特例措置廃止の動きには、いち早く要望書を提出し関係省庁に働きかけたため要望は実現。

その他、非常勤医師の源泉所得税徴収に関して、実態を正確に把握し要望現実の資料とするため、アンケートを実施。全国約500病院を集計した。

来年度は、全病院団体の要望を一本化、税制改正の要望を是非とも実現して行くつもりである。

12. 国際委員会

1. 開催回数： 7回
(56. 5. 21 / 7. 9 / 9. 10 / 10. 28 / 11. 10 / 12. 21 / 57. 2. 8)
2. 参加人数： 7回合計55名
3. 議 題 と： (1) 56年度海外視察研究会計画
委員会報告 (イ 第4回米国診療録管理業務MRL視察、8.11～8.20コーディネータ 高橋政祺)
(ロ 西独救急医療とプライマリーケア視察、8.22～9.5 コーディネータ 波多野誠)
(ハ AHA総会参加とホスピタルショウ視察、8.28～9.8 コーディネータ 川野正七)

(ニ 第22回国際病院学会 I H F シドニー大会参加と病院視察、10.16～28
コーディネータ 吉岡観八)

(ホ 中国病院視察とシルクロード、11.11～24 コーディネータ 河野 稔)

(2) 国際交流

I H F ・ A H F 加盟国との交流、積極的に関連委員会、会議等に出席すべく努力する。

(3) I H F 国際交流基金

日本における I H F 国際学会開催時の余剰金の扱いについて特別会計として国際交流および出版物発行のための基金にあてる。

(4) 大韓病院協会からの医療事務実務研修団来日

9月24日～30日8名来日、北品川総合病院他3病院において医療事務等の研修を行い厚生省病院管理研究所において日本のシステムの講習を受ける。

(5) I H F ・ A H F からの連絡文書

I H F 常任理事に吉岡観八副会長が、A H F 理事に内藤会長、河野、村田両副会長が就任。

第22回国際病院学会シドニーにおける I H F 各会議10月18日～23日に内藤会長、吉岡、村田両副会長が出席。

大韓病院協会第22回会議、4月29日に村田副会長が出席。

台湾病院協会第14回会議、5月2日に村田副会長が出席。

フィリピン病院協会第32回会議、11月18日～20日に吉岡副会長が出席。

I H F 会費 1,500 ポンド、A H F 会費 500 ドル支払う。

(6) 海外視察研究会・開催結果報告

イ 24名参加、ロ 14名参加、ハ 中止、ニ 24名参加、ホ 16名参加。

(7) 57年度海外視察研究会計画

4コース(イ ソビエト、ロ アメリカ、ハ 中国、ニ アルゼンチン)が決定。

(8) 57年度国際活動の計画

国際活動を充実させる。I H F 実行委員会6月18日～19日ロンドン、および11月12日～13日ロンドンに吉岡副会長が出席の予定。

I H F ・ A H F の各会議に関係者が出席するよう心掛ける。海外視察研究会の二において地域会議に出席する予定。

A H F スタディーツアー、5月16日～22日に関係者他が参加する。開催国韓国。

海外向けの出版物を発行する、配布先は I H F ・ A H F 全会員、内容は日本の関係者による論文等。発行予定 7 月。

(9) 吉岡観八副会長国際委員会に参加

新たに吉岡副会長が国際委員会に参加する。

以 上

13. 医療費対策特別委員会

1. 開催回数 5 回

2. 延出席者数 36 名

3. 協議項目

- 1) 今後の病院医療問題について（老人保健法について）
- 2) 今後の病院医療費問題について（各病院団体の医療費対策について）
- 3) 予想される厚生省の医療費対策について
- 4) 日本の病院の自浄努力について
- 5) 医療費の短期的対策について
- 6) その他

4. 総 評

医療費対策特別委員会は、本年 6 月 1 日の医療費改定が実質的な引き下げとなった結果、日本病院会としての医療費に対する基本姿勢を検討すべく、11月に設置された委員会であり、当面、即時改定を要求するための短期対策及び、将来構想を検討する長期対策に分け、会議を開催することとなっている。

第6. 医療従事者無料職業紹介事業報告

職業別 \ 項目	求職件数	求人件数	就職件数	繰越された有効	
				求職件数	求人件数
医師	49	98	26	21	63
看護職員	10	65	3	4	28
医師看護職員を除く医療従事者	12	48	7	3	30
合計	71	211	36	28	121

※ 表中繰越された有効求職件数および求人件数は求職および求人を取り消した件数を除いた。

(総 評)

開業医を上回る伸び率で増加する病院勤務医の将来を見越し、本紹介事業が設置されて2年が経過し、56年11月労働大臣より再認可を得ている。

今年度は、医事新報、日経メディカル等業界紙(誌)にP・Rするなど広報活動を中心に効果があらわれ全国から幅広く問い合わせや求人求職があった。

57年度は更にP・R活動を図りながら求人、求職双方の期待に添うよう、業務の拡大、推進に努めたいと考えている。

第7. 定例研究会

1. 定例病院診療研究会

1. 開催回数 12回

2. 開催概要

4月21日(火) 東京都立広尾病院 15施設 32名

① 講演 「CCUの役割」 東京都立広尾病院 循環器科医長 本宮 武司

② 施設見学

5月19日(火) 昭和大学病院 14施設 20名

① 講演 「新装なった5床室の特徴及び防災施設について」

株式会社 アルコム 水野 統夫

株式会社 アルコム 向田 勇三郎

② 施設見学

6月16日(火) 東京都立神経病院 6施設 12名

① 講演 「神経病院の現状と今後の展望」

東京都立神経病院 副院長 宇尾野 公義

② 施設見学

7月21日(火) 東芝林間病院 7施設 10名

① 講演 「画像診断機器の現状」 東芝ME機器担当技術部長 的崎 健

② 施設見学

8月18日(火) 番町共済会館 32施設 38名

① 講演 「病院における医療と経営」 虎の門病院 院長 浅井 一太郎

北里大学 教授 井上 昌彦

(事務管理研究会と合同で開催)

9月22日(火) 豊島中央病院 4施設 13名

① 講演 「子宮がんの早期発見について」 豊島中央病院 院長 吉田 竹郎

講演 「当院における人工透析の現況について」

日本大学医学部 第二内科科長 高橋 進

② 施設見学

10月20日(火) 国立身体障害者リハビリテーションセンター 13施設 31名

① 講演 「身体障害者のリハビリテーションと問題点」

国立身体障害者リハビリテーションセンター 診療部長 初山 泰弘

② 施設見学

11月17日(火) 東京医科大学八王子医療センター 16施設 36名

① 講演 「東京医科大学八王子医療センターの現況について」

東京医科大学 理事 花輪音三

② 施設見学

12月15日(火) (財)東京都がん検診センター 9施設 17名

① 講演 「がん対策 ― その現状と背景 ―」

(財)東京都がん検診センター 前調査部長 西宮 脩

② 施設見学

1月19日(火) 牧田総合病院 17施設 28名

① 講演 「人間ドック20年の経験と将来の展望」

牧田総合病院 副院長 笹森典雄

② 施設見学

2月16日(火) 北品川総合病院 14施設 17名

① 講演 「悪環境下における医療資源の有効利用」

北品川総合病院 院長 河野 稔

3月16日(火) 心身障害児総合医療療育センター(整肢療護園) 9施設 30名

① 講演 「肢体不自由児の療育について」

心身障害児総合医療療育センター センター長 小池文英

② 施設見学

2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

8月18日(火) 番町共済会館 32施設 38名

「病院における医療と経営」

虎の門病院 院長 浅井 一太郎

北里大学 教授 井上 昌彦

(病院診療研究会と合同で開催)

10月27日(火) (社)日本病院会会議室 22施設 29名

「医療費改正と病院経営」

東京都済生会中央病院 事務長 黒田 幸男

3月25日(木) (社)日本病院会会議室 20施設 30名

「オフィス・オートメーションと病院事務管理」

関東通信病院 電子応用医学研究部長 三宅 浩之

「OA時代と事務」

聖路加国際病院 事務長 上林 三郎

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

5月16日(土) 東京ホテル浦島 72施設 112名

1) 「新しい検査機器の知識と使われ方一点数算定の基礎知識一」

三井記念病院 健康管理科中央検査部長 清瀬 闊

2) 「病院における医事課の立場と医療情報管理について」

厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原 信吾

6月17日(水) 番町共済会館 63施設 95名

「医事業務とコンピュータ その⑥」

(A) コンピュータ導入を検討中

導入を決めるまで 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤 秀雄

導入時の問題点 杏林大学医学部附属病院 医事課長 徳永 貴士

(B) コンピュータ稼動中

導入後の問題点(その1)一チェック体制を中心として

三井記念病院 医事係長 井上 政美

導入後の功罪 佼成病院 医事課長 斎藤 昌久

全体討議

10月22日(木)～23日(金) 湯河原厚生年金会館 99施設 156名

1) 基礎医学講座第20回

「医事課職員に必要な医学知識一整形外科について一」

湯河原厚生年金病院 副院長 立岩 邦彦

2) 「点数改正の留意点」

三井記念病院 医事顧問 三上 晃

3) グループ討議

4) 事例解答例の説明

5) 全体討議

2月17日(水) 家の光会館 81施設 192名

1) 「接遇について」

㈱伊勢丹 経営計画本部組織担当部長 淵田 比呂紀

2) 「事例発表」

日本医科大学附属病院 医事課外来係 加藤 正佳

佼成病院 医事係長 藤田 勝義

3) 「病院事務長が期待する医事課員の患者サービス」

日本大学医学部附属板橋病院 事務長 平野栄次

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

7月17日(金) 日本病院会会議室 20施設 23名

1) グループ討議(就業規則及び諸規程の運用上の問題点)

「給与」「休暇・勤務時間」「就業規則改正手続等」「採用、出張、その他諸問題」

2) 「病院の就業規則について」

労働省労働基準局監督課中央労働基準監察監督官 福田陽一郎

9月18日(金) 日本病院会会議室 26施設 34名

1) 「病院におけるマイコンとワードプロセッサの有効利用について」

聖路加国際病院 事務長 上林三郎

2) 「マイコンの機能について」

3) 「ワードプロセッサの機能について」

4) 「ワードプロセッサの活用の実例」

聖路加国際病院 庶務課次長 石山稔

11月20日(金) 日本病院会会議室 23施設 34名

「東海地震警戒宣言発令時の対応について」

警視庁 警備部災害対策課長 荒井昭

静岡赤十字病院 事務副部長 今春義雄

3月5日(金) 日本病院会会議室 47施設 53名

「パート等の雇入れ通知書(雇用契約書)の発行その他について」

労働省労働基準局 監督課中央労働基準監察監督官 福田陽一郎

5. 定例用度研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

7月16日(木) 日本病院会会議室 59施設 74名

「薬価基準改定に伴う薬品購入価格調査」

3月19日(金) 日本病院会会議室 50施設 57名

「医薬品の新納入価格は決定したか」

6. 定例施設研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

5月21日(木) 日本病院会会議室 22施設 25名

「病院設備の事故例」

- 1) LPガス爆発とその安全管理について
- 2) 受電室天井より漏水による停電事故例について
- 3) 冷却水および冷温水用のフレキシブル破損事故例について

9月17日(木) 日本病院会会議室 39施設 47名

「病院設備の省エネ実施例または考え方—電気・ガス・水道・空調・その他—」

11月19日(木) 東京都立広尾病院 25施設 54名

「開設1年を迎えた病院の施設管理見学—東京都立広尾病院」

7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

6月17日(水) 東京都済生会中央病院 44施設 50名

- 1) 資金繰り表の作り方 虎の門病院 会計課長 橋本 レツ子
- 2) 収支概算表の作り方 河北総合病院 事務長 酒泉 春雄
- 3) 院内施設見学

11月5日(木) 日本病院会会議室 76施設 88名

- 1) リースか購入か 東京衛生病院 経理課長 衣川 輝夫
- 2) 最近の経済情勢と今後の展望 第一勧業銀行 調査部主事 小崎 睦雄
- 3) 経営分析集計結果の発表 河北総合病院 事務長 酒泉 春雄
- 4) 最近における税務会計上の諸問題 伊藤会計事務所 伊藤 寛
- 5) 病院経営危機をいかにして乗り切るか 国保旭中央病院 院長 諸橋 芳夫

8. 定例労務研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

4月28日(火) (社)日本病院会会議室 34施設 51名

「国立横須賀病院における4週5休制への対応」

国立横須賀病院 事務部長 福島 信四郎

7月28日(火) 東京トラック事業健保会館 70施設 141名

「当院における外来の応援体制」

聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

関東中央病院 総看護婦長 中島 シズオ

河北総合病院 総婦長 鹿又 寿美恵

東京都済生会向島病院 事務長 稲垣 武

10月6日(火) (社)日本病院会会議室 29施設 38名

「当院における週休2日制への対応」

—給食部門における業務改善と勤務体制—

東京厚生年金病院 栄養部長 松原 民江

佼成病院 食養部長 丹治 茂子

東京都済生会向島病院 事務長 稲垣 武

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

5月17日(土) 東京ホテル浦島 60施設 178名

1) 看護論と看護実践 聖路加看護大学 教授 近藤 潤子

2) 新しい医療機器の現状 東京女子医科大学 教授 桜井 靖久
医用工学研究施設長

3) ホスピタルショウ見学

10月8日(木) 関東通信病院 42施設 72名

1) 病院からみたコンピュータの重要性 関東通信病院 院長 澤崎 博次

2) 共同利用型病院情報システムについて

関東通信病院 医療近代化準備室長 名和 顯

3) 院内施設見学

10. 定例看護研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

7月16日(木) 牛込公会堂 74施設 425名

看護研究の基本的なことから—文献の活用と論文のさがしかた—

厚生省看護研修研究センター 主任教官 金井 和子

1月28日(木) 富士銀行麴町支店講堂 20施設 44名

11. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

5月12日(火)	日本赤十字社医療センター	35施設	47名	
① 「病院の搬送システム」		東京警察病院 薬剤部長	海老沼 廣	
		同愛記念病院 薬剤科長心得	八木下 将也	
② 施設見学(中央血液センター)				
7月7日(火)	日本赤十字社医療センター	60施設	68名	
「試用(試供)薬品の取扱に伴う問題点」		日本製薬工業協会流通委員会副委員長 武田薬品工業㈱医薬営業本部次長	山田 裕久	
12月1日(火)	家の光会館	56施設	62名	
「麻薬に関する諸問題」		厚生省薬務局麻薬課 厚生技官	箭内 博行	
		関東信越地区麻薬取締官事務所 所長	藤田 傳一	
		関東信越地区麻薬取締官事務所 捜査第一課長	斎藤 康夫	
		国立癌センター 薬剤科長	越川 芳一	
2月19日(金)	日本赤十字社医療センター	30施設	37名	
「保険薬価設定の基準」		日本薬剤師会 副会長	吉田 俊	

12. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

6月9日(火)	(社)日本病院会会議室	45施設	49名	
「厨介処理について」		□成病院 食養部長	丹治 茂子	
		東京都清掃局総務部 普及課普及係長	田上 嘉男	
9月2日(水)	都立府中・神経病院	54施設	70名	
「神経の生理と神経難病について」		都立神経病院 副院長	宇尾野 公義	
「都立病院における献立標準化システム」		都立府中病院 栄養科長	深浦 京子	
「味覚の生理と嗜好について」		都立神経科学総合研究所 所長	佐藤 昌康	
2月16日(火)	成病院	65施設	123名	
① 「給食サービスの改善事例について」	座長:	佼成病院 食養科長	丹治 茂子	
a. 給食時間の適正化について		蒲田総合病院 栄養科長	吉田 千恵子	

□成病院	食養科調理主任	福田清二
関越病院	栄養科栄養主任	山川泰
東京衛生病院	栄養科長	米山貞治

b. 選択給食について

② 施設見学(厨房)

13. 定例調理研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

5月13日(水)	(社)日本病院会会議室	54施設	75名	
	「濃厚流動食・ミキサー食」	順天堂医院	栄養部主任	小山正博
7月8日(水)	(社)日本病院会会議室	51施設	75名	
	「検査食について(潜血食を中心として)」	北里大学病院	栄養科科長代理	青木弥生
9月11日(金)	(社)日本病院会会議室	40施設	60名	
	「術前・術後食について」	東京医科大学病院	栄養係長	平井千枝
	「これからの病院調理師のあり方」	都立神経病院	栄養科調理主任	矢野勇之助
11月11日(水)	(社)日本病院会会議室	33施設	47名	
	「小児疾患食」	都立豊島病院	栄養科長	矢野良子
	「冷凍食品について」	中央食品株式会社	社長	狩野弘道
1月27日(水)	(社)日本病院会会議室	23施設	35名	
	「アレルギー食について」	同愛記念病院	栄養管理室長	佐野倫子

14. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

第56回	4月11日(土)	25施設	35名
	横須賀共済病院	病歴室見学	
第57回	7月11日(土)	40施設	52名
	東京厚生年金病院	病歴室見学	
第58回	10月3日(土)	14施設	28名
	佼成病院	病歴室見学	
第59回	1月9日(土)	29施設	37名
	東邦大学大森病院	病歴室見学	

15. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

4月17日(木) 番町共済会館 64施設 102名

- 1) スライド映写『調理器具の衛生』(二次汚染による食中毒を防ぐために)
- 2) 病院給食における食中毒の予防と対策及び発生例について

東京都衛生局環境衛生部 食品衛生課調査係長 篠原 楷

- 3) 病院給食の管理について 聖マリアンナ医科大学 栄養部長 最勝寺 重芳

6月18日(木) 平塚胃腸病院 23施設 27名

- 1) 胃腸専門の病院としての実績とその管理について

- 2) これからの胃腸専門病院のありかた 平塚胃腸病院 院長 平塚 秀雄

- 3) 院内見学

9月10日(木) 日本病院会会議室 56施設 65名

- 1) 今後の病院のありかた 日経メディカル 編集長 高津 和子

- 2) 公私立病院間の経営比較分析(これからの病院運営の問題点)

大東文化大学 経済学部教授 藤井 誠一
八千代会計事務所 所長

1月21日(木) 日本病院会会議室 10施設 15名

- 1) 病院共同組合20年のあゆみ

(病院医療危機克服における共同組合事業の活用)

- 2) 病院給食の共同について 神奈川県病院共同組合 事務局長 石田 貞治
慈啓会 大口病院 事務局長
和歌山県私立病院事業共同組合 理事長 中村 了生
中村病院 院長

3月18日(木) 東京トラック健保会館 42施設 59名

- 1) 薬物による医療事故の判例とその対応策 東京都医師会顧問弁護士 高田 利広
日本看護協会顧問弁護士

- 2) 医療薬物の副作用について、及びその対応策

国立相模原病院 院長 堀内 淑彦
中央薬事審議会副作用調査会座長
中央薬事審議会臨時委員
前 東京大学物療内科教授

16. 定例放射線研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

4月24日(金) 東京都立広尾病院 31施設 35名

- 1) 放射線障害防止の改訂と今後の放射線安全対策の考えかた

科学技術庁原子力安全局 放射線安全課長 松本 邦宏

2) 院内施設見学

6月26日(金) 薬業会館(横浜市) 34施設 55名

(全体討議)放射線技師と看護婦との業務協力

8月28日(金) 日本病院会会議室 24施設 32名

(全体討議)大腸検査法について技師の立場から

12月11日(金) 東京電力病院 18施設 25名

1) (全体討議)X線フィルムの保管について

2) 院内施設見学

2月26日(金) 関東通信病院 27施設 39名

1) (全体討議)装置管理のポイントについて

2) 院内施設見学

17. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

7月10日(金) 日本病院会会議室 37施設 54名

1) 病院の検査に拘る公害問題—薬品の廃液処理について—

品川区保健衛生部衛生試験所 所長 江口 定衛

2) 病院検査室における消毒の問題

東京都養育院付属病院研究検査部微生物科長 島田 馨

9月24日(木) 順天堂医院階段教室 60施設 78名

1) 点数改定とその対策

東京都済生会中央病院 事務長 黒田 幸男

2) 検査室の物品管理

東京都済生会中央病院 臨床検査技師長 坂内 英明

11月20日(金) 順天堂医院階段教室 40施設 53名

1) 保険点数の改正に伴う自動分析機の利用とその利用法

東京通信病院 第二臨床検査科部長 大森 昭三

2) 救急検査室の管理とその対応

昭和大学病院臨床検査技師長 平沢 政人

3月5日(金) トラック健保会館 40施設 60名

臨床検査の原価計算のしかた

日本衛生検査所協会 常務理事 岩路 昌之

18. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

6月4日(木) 番町共済会館 28施設 55名

「病院ハウスキーピング部門に必要な消毒の知識」

都立アイソトープ総合研究所 企画普及課長 佐藤 健二

10月30日(金) (社)日本病院会会議室 67施設 91名

「リネン類の管理と帳票の問題—特に基準寝具の監査との関連において—」

東京都福祉局保健部 保健指導課 大高南 場野雲 壺 齊高到

1月22日(金) 都立広尾病院 18施設 30名

「都立広尾病院の見学(廃棄物処理・清掃関係を中心として)」

第8. 内科臨床協議会 (Joint Conference)

- 4月21日(火) 東京警察病院 参加人員
27名
発熱とリンパ腺腫脹した1例
- 5月28日(木) 国立病院医療センター 36名
(1) ネフローゼ症候群を伴った血性胸膜炎の1剖
検例 (日本赤十字社医療センター)
(2) (イ) 特発性浮腫に対するL-DOPA及びCAP-
TOPRILの使用経験
(ロ) 糖尿病患者に合併した眼筋麻痺
(ハ) ビマン性消化管カンジダ症の1剖検例
(国立病院医療センター)
(3) 全身に高度のカルシウム沈着をきたした骨髄
腫の1例 (佼成病院)
- 6月25日(木) 関東通信病院 27名
(1) 突然発症の呼吸困難の1症例
(関東通信病院)
(2) 高熱と全身発疹を呈した45才女性の1症例
(北品川総合病院)
- 9月24日(木) 東京都済生会中央病院 22名
(1) ヘモクロマトーシス (済生会中央病院)
(2) 単球性白血病 (永寿総合病院)
- 11月5日(木) 東京都立豊島病院 13名
糖尿病経過中に著明な出血班を主訴として入院死
亡した症例 (都立豊島病院)
- 11月19日(木) 関東中央病院 26名
(1) 多彩な臨床像を呈し、肝膿瘍が疑われた胃癌
の1例 (中央鉄道病院)
(2) 慢性骨髄性白血病と胃潰瘍
(自衛隊中央病院)
(3) 不明の発熱・リンパ節腫脹・関節炎・高ガン
マグロブリン血症の認められた1例
(国立大蔵病院)

- (4) 多発性透亮を伴った両側肺浸潤影を呈した 1 例 (関東中央病院)
- 11月20日(金) 東京都立墨東病院 参加人員 15名
- (1) Idiopathic Scoliosis を伴い肺結核症の合併をみた40才女子 primary acquired agammaglobulinemiaの1例(都立墨東病院)
- (2) 褐色細胞腫の1例 (国立国府台病院)
- 11月28日(土) 共済立川病院 15名
- (1) (イ) 心電図上ST上昇を示した1例
(ロ) 亜急性肝炎の1剖検例(国立立川病院)
- (2) 悪性リンパ腫の1剖検例 (共済立川病院)
- 2月16日(火) 社会保険中央総合病院 30名
- (1) (イ) 肺症状の消長を示したサルコイドーシス
(ロ) サルコイドーシスの眼底所見
(東京厚生年金病院)
- (2) 皮膚と骨の変化を主とするサルコイドーシス
(河北総合病院)
- (3) サルコイドーシスの4例
——剖検例1例を含む——
(社保中央総合病院)
- 2月23日(火) 三楽病院 29名
- (1) 貧血と血小板減少症に併発した敗血症の1例
(聖路加国際病院)
- (2) 胃潰瘍経過中に頸部リンパ節腫脹をきたした1例 (国立がんセンター)
- (3) 興味ある腓腫瘍の1例 (三楽病院)
- 3月16日(火) 東京通信病院 18名
- 大量の消化管出血を併発した広範な脳内出血の1例 (東京通信病院)

第9. 全国総合研究会

全国総合研究会（第2グループ）

放射線研究会

1. 日 時 10月16日(金)～17(土)

2. 場 所 京都労働者総合会館

3. 参加者数 35名 25施設

① 医療人としての職業倫理 遠山病院 院長 遠山 豪

② 変って行くこれからの医療 聖路加看護大学 学長 日野原 重明

③ 全体討議(1)

患者の接遇（放射線技術の立場から）

座長 国立東京第二病院 放射線科主任 杉尾 敏 憲

座長 北品川総合病院 放射線科技師長 河野 通 孝

④ 全体討議(2)

放射線技師と看護婦との業務協力

座長 東京医科大学霞ヶ浦病院 放射線科係長 藤田 良 三

座長 北里大学病院 病棟婦長 五十嵐 晴 子

5. 総 評

第2グループは当初、栄養管理研究会・調理研究会・臨床検査管理研究会・診療録管理研究会・放射線研究会の5部門合同のものであったが、放射線研究会以外の部会が、この合同研究会の全国開催を中止したため、放射線研究会単独で実施となったため、地元、病院協会始め関係5団体の後援にもかかわらず有料参加者35名と例年並の参加数にとどまった。しかし内容的には遠山先生、日野原先生の特別講演を始め2題の全体討議も終始熱のこもった有意義な研究会であった。

全国総合研究会（第1グループ）

病院管理総合研究会

薬事管理研究会

看護管理研究会

看護研究会

1. 日 時 11月5日(木)～6日(金)

2. 場 所 名古屋第一赤十字病院 古川講堂

3. 参加者数 88施設 147名

① シンポジウム(1)「病棟での薬剤管理」

日本専売公社東京病院 看護部長 須谷 照子
武蔵野赤十字病院 病棟婦長 中原 久江
東京通信病院 薬剤部長 永瀬 一郎
東京警察病院 薬剤部長 海老沼 廣

② 「病院災害対策」(特に病院管理を中心にして)

日本赤十字社医療センター外科副部長 高橋 有二
中央防災会議専門委員

③ 「これからの病院経済」

厚生省病院管理研究所経営管理部長 石原 信吾

④ 「シンポジウム(2)「これからの病院経済」

病院長の立場から 総合大雄会病院 院長 伊藤 研
病院長の立場から 有澤総合病院 院長 有澤 源蔵
行政の立場から 厚生省医務局指導 小沢 壮六
助成課 課長
病院管理研究者の立場から 自治医科大学 教授 一条 勝夫

4. 総 評

(社)愛知県病院協会の後援を得てはじめての4部門合同研究会を名古屋第一赤十字病院、古川講堂を会場に開催されたが、地元愛知県からは約半数の70名近くの参加者があり、北は秋田県から南は福岡県まで1都、2府、21県から147名の参加者があり、2日間に亘る研究会は終始熱心な討議、質問等が交わされ、しかし限られた時間内で4部門の特色を出す事は難しく準備段階で今後更に十分な検討が必要であると思われた。

(社)愛知県病院協会のご協力に深く感謝いたしております。

全国総合研究会

用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和56年11月27日(金)～28日(土)
3. 開催地 京都市 京都社会福祉会館
4. 参加者数 118施設 146名
5. 演 題

1) 「薬価基準改定後の薬品購入価格の実態 —アンケートの集計結果及び解説—」

日比谷病院 庶務課長 梅津 勝男

2) 「医療機器購入に関する問題」

武蔵野赤十字病院 調度課長 緒方 廣市

3) 「用度業務調査(A)・(B)」

聖路加国際病院用度課長 塩山 雅英

虎の門病院用度課長 南雲 英俊

4) 「80年代の病院 一用度担当者の役割一」 武蔵野赤十字病院事務部長 東 義晴

5) 「グループ討議・全体討議」

6. 総 評

「昭和56年6月1日薬価基準が18.6%引き下げ」

「医療費が8.4%引き上げられたにもかかわらず、それは薬価ダウンを吸収するに遠く及ばない。」

という状況下で研究会が企画され、開催された。

企画段階で、参加者が単に講演を聞くにとどまらず、討議を通じ、各病院が内包する諸問題解決への糸口が見つけれられるように、つまり、参加者相互の情報交換が可能となるようなプログラム作成に配慮した。

開催に先だちテーマに即したアンケート調査を実施し、回答率20%。

この調査集計表を資料として参加者に配布したが、終了後「この集計表を手に入れるだけでも貴重です。」という声は異口同音に参加者から聞かれた。

また、今年度は「運営がスムーズでテーマが時宜にかなっていた。」あるいは「討議時間をもっと増やしてほしい」等々の要望もあり、これらの声に応えられるようなお一層の改善に励みたいと思っている。

全国総合研究会（第4グループ）

施設・ハウスキーピング・図書室研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和57年2月5日(金)～6日(土)

3. 開催地 東京都 第1日：牛込公会堂
第2日：家の光会館・家の光ビル

4. 参加者数 85施設 115名

5. 演 題

(第1日)

1) 「日本病院会研究会のあゆみ」 学校法人東京文化学園 常任理事 落合 勝一郎

2) 「病院の管理」 厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原 信吾

3) 「相互の注文と対応 一何を知りたいか、何を知らせたいか一」

自治医科大学 施設課長 倉持 一雄

慶応義塾大学病院 ハウスキーパー 小田桐 信子

6. 総 評

参加対象者が、病院内において必ずしも多くなく、しかも新企画ということで戸惑いがあったにもかかわらず予想以上の好評を博した。

特に、「相互の注文と対応」に対しては、事前のパネラーによる打合わせがスムーズに終始していたこともあり、当日の興味深い発言に耳を傾ける多数の姿があった。

施設研究会（分科会）

全国総合（施設、ハウスキーピング、図書室）研究会分科会

1. 開催期日 2月6日(土)
2. 開催地 東京都・家の光会館
3. 参加者数 36施設 44名
4. 演 題

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1) 「院内の空気環境問題」 | 自治医科大学 施設課長 倉持一雄 |
| 2) 「病院の増改築の実施例と問題点」 | 癌研究会付属病院 施設管理課長 松岡文男 |
| 3) 「院内の防災対策」 | 東京都済生会中央病院 施設課長 辺見九十九 |
| 4) 「ボイラーの改修例と問題点」 | 東京警察病院 事務長補佐 石原英世 |
| 5) 「給排水設備の機能改善例」 | 都立豊島病院 主事 中西照録 |
| 6) 「配管類の腐食・防食対策」 | P A C 技術士事務所 所長 仲田 潔 |

6. 総 評

テーマが多岐にわたっていたにもかかわらず、テーマに即した各講師からの具体的な発表に対し、「明日からでも役立つ講演が多数あり、日頃かかえている問題の解決への糸口を見つけることができた。」「ちょっとした施設管理の工夫例を知ることができた。」等々の参加者からの声が届き、その成課が期待される場所である。

ハウスキーピング研究会（分科会）

全国総合（施設、ハウスキーピング、図書室）研究会、分科会

1. 開催期日 2月6日(土)
2. 開催会場 家の光会館
3. 参加者数 29施設 35名
4. 開催概要 (分科会として)

シンポジウム

(1) 「私の立場から考えるハウスキーピング」

座長	厚生省病院管理研究所 経営管理部長	石原信吾
病院長の立場から	(社)日本病院会常任理事・蕨市立病院院長	池谷 亘
事務長の立場から	日本大学医学部附属板橋病院 事務長	平野 栄次
総婦長の立場から	聖路加国際病院 総婦長	内田 椰子

(2) 「ハウスキーピング部門におけるよい患者サービスのために」

座長	(社)日本病院会ハウスキーピング研究会委員	近藤 英二
1) 清掃について	(社)日本病院会ハウスキーピング研究会委員長 慶応義塾大学病院 ハウスキーパー	小田桐 信子
2) リネンサプライについて	順天堂医院 リネン係長	水野 淑子
3) 消毒について	(社)日本病院会ハウスキーピング研究会副委員長 虎の門病院 整備課長	粕谷 良
4) 作業員の教育について	(社)日本病院会ハウスキーピング研究会委員 聖路加国際病院 ハウスキーピング課長	内藤 均
5) 質疑応答		

6. 総 評

第4グループ全国総合研第2日目分科会において、ハウスキーピング研究会は上記諸テーマにより、ハウスキーピング業務の病院内における位置づけ、ならびに基本的諸問題について、多角的に意見を交換した。午前、午後を通じて、参加者からもかなりの質問が寄せられ、熱気を帯びた勉強会となった。職域の確立がまだ不十分な現状にもかかわらず、病院管理の物的側面における実際において、ハウスキーピングの重要性を再確認することができたといえよう。

図書室研究会（分科会）

全国総合（施設、ハウスキーピング、図書室）研究会、分科会

1. 開催期日 2月6日(土)
2. 開催会場 家の光ビル
3. 参加者数 31施設 33名
4. 開催概要 (分科会として)

「病院図書室における図書の分類法について ー米国医学図書館分類法を中心としてー」

東京医科大学図書館 司書 高野 史子

「事例による図書の分類について」(演習)

東京医科大学図書館 司書 高野 史子

5. 総 評

昭和56年度の全国研究会は、従来とは趣きを変えて施設、ハウスキーピング、図書室の三研究

会合同として開催された。当初は、各研究会との関係について、実際どの程度つながりがあるのか、またテーマはどのようなものを設定したらよいか等が懸念されたが、実際に開催してみると色々と参加者より問題点も出され、質疑応答時間もオーバーするなど、主催者側の杞憂におわり、盛会であった。2日目の分科会では、2日目のみの参加者を含め、図書室研究会としては31施設33名の出席があり、午前の講演、午後の演習を通じ、各病院図書室でかかえている問題点が数多く出され、参加者同志の活発な意見交換をとおり、有意義に時間を過ごした。なお今後も、今回のように、他部門との関係を取り入れたテーマの設定も検討する余地があると思われる。

第10. 第一線リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

第1回（6日間コース）

期 日 6月21日（日）～26日（金）
開催地 湯河原町・ちとせ荘
参加者数 15施設 18名（修了証交付）
演 題 1) 組織と監督者
2) 仕事の管理
3) 仕事の改善
4) 部下の研修
5) リーダーシップ
6) 事例研究

第2回（3日間コース）

期 日 11月12日（木）～14日（土）
開催地 日本病院会会議室
参加者数 22施設 35名
演 題 1) 職場リーダーのポジションと役割
2) 職場運営のポイント
3) 要求される創意工夫
4) 職場研修のねらい
5) リーダーシップと相互理解
6) ケーススタディ

第3回（3日間コース）

期 日 2月18日（木）～20日（土）
開催地 京都市・京都府立勤労会館
参加者数 29施設 48名
演 題 第2回と同じ

3. 総 評

「あなたはこのJSTがどんなものか知っていましたか。」という問いに、参加者の約60%（6日

間コース、3日間コースへの参加者アンケート平均)が「全然知らなかった」「知らないも同然」と答えている。

事実、ほとんどの参加者が、積極的に「この研修会に参加したいと思っていた。」と答えていない。しかし、終了後、参加者から「この研修会をこのままに終わらせたくない気持で一杯であり、何年後、同グループで今回の研修成果を職場に反映させることが出来たか話しあってみたい。」「こうした企画の研修会へは初めてでしたが、受講してみて忘れていたことを再認識したり自覚がもてたり、他のリーダー、上司へも奨めたいと思っている。」あるいは「ケーススタディの時間を増やしてほしい。」「もう少しゆとりある日程を組んでほしい。」等々の声が聞かれた。

これらの声に応えるべく、その都度、日程の練り直しを図っているが、今後も研修の実をあげるようなお一層の改善に努めたいと思っている。

第 11. 病院視察研究会

1. 実施日時 56年 6月 5日(金)～6日(土)

2. 開催地 岡山県・兵庫県

3. 視察病院 1) 倉敷中央病院
2) 神戸市立中央市民病院
3) 神戸海星病院

4. 参加者 42名

5. 総 評

今年で21年を迎えたこの研究会は42名の参加者を得て、6月5日～6日の1泊2日で岡山県と兵庫県下の病院を訪問した。

6月5日は(財)倉敷中央病院を見学したが、ここは大正12年に倉敷紡績社員の福祉施設として開設されたが、その後幾多の変遷を経て、今日約5万平方メートルの敷地に1,103床、職員数1,200人の大病院であり、現在一部改築工事が行われ、すでに本館は竣工、現在パラメジカル部門が工事中であるが、昨年末には完成されている。

翌6日は午前中が、神戸市立中央市民病院の見学であったが、ここは敷地そのものがポートピアのために海を埋立てて作った人工島で、見渡す風景も米国的であり、その規模も日本一の名にふさわしい病院で、市民の命と健康を守る地域医療機関の中核的病院として設立されたが、敷地49,730平方メートル、建物面積59,500平方メートル、病床数1,000床、1日平均外来患者数1,720人、職員数1,230人である。

午後は神戸海星病院の見学で、ここは222床の病院で、神戸港を見下す山の上に建てられ、絶好の展望を持つ一等地にあり、外人病棟を持つ特色のある病院で、居留者や外国船員のために特別の看護体制を布いている。

第12. 診療録管理通信教育

1. 入学状況

○第19期生入学

- | | |
|---------|------------------|
| 1) 開講月日 | 昭和56年7月1日 |
| 2) 入学者数 | 88名(但し、6名2年次編入含) |
| 3) 受講料 | 54,000円(年間) |

○第20期生入学

- | | |
|---------|-------------------|
| 1) 開講月日 | 昭和57年1月1日 |
| 2) 入学者数 | 93名(但し、19名2年次編入含) |
| 3) 受講料 | 54,000円(年間) |

2. 卒業状況

○第15期生卒業

- | | |
|---------|----------------|
| 1) 卒業者数 | 44名(男8名、女36名) |
| 2) 卒業式典 | 昭和56年10月14日(水) |
| 3) 同上会場 | 日本教育会館(東京千代田区) |

○第16期生卒業

- | | |
|---------|---------------|
| 1) 卒業者数 | 35名(男7名、女28名) |
| 2) 卒業式典 | 昭和57年3月27日(土) |
| 3) 同上会場 | ダイヤモンドホテル |

3. 受講生員数状況

- | | |
|--------|----------------|
| ○入学者総数 | 1,649名(1~20期) |
| ○卒業者総数 | 586名(1~15期) |
| ○受講生総数 | 444名(57.2.1現在) |
| 内訳 | |
| 第16期生 | 82名(57.2.1現在) |
| 第17期生 | 53名 |
| 第18期生 | 128名 |
| 第19期生 | 88名 |
| 第20期生 | 93名 |
| 第一年次生 | 262名 |
| 第二年次生 | 182名 |
| | 444名 |

4. 集中スクーリング実施状況

○昭和56年8月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第 18 ・ 19 期 生			第15期生 第17期生	第 16 ・ 17 期 生 第19・20期生の内2年次編入者		
20日 (木)	21日 (金)	22日 (土)	23日 (日)	24日 (月)	25日 (火)	26日 (水)

東京地区	校成看護専門学校	548名
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	255名
福岡地区	福岡大学医学部	103名
計		906名

○昭和57年2月

基礎科目スクーリング			試 験	専門・関連科目スクーリング		
第 19 ・ 20 期 生			第16期生 第18期生	第 17 ・ 18 期 生 第19・20期生の内2年次編入者		
18日 (木)	19日 (金)	20日 (土)	21日 (日)	22日 (月)	23日 (火)	24日 (水)

東京地区	早稲田速記学校	535名
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	245名
福岡地区	福岡大学医学部	107名
計		887名

5. 医学セミナー実施状況

①	4月25日	情報管理Ⅱ	関東通信病院	7名
②	5月30日	医学用語学Ⅰ	日本病院会会議室	13名
③	6月20日	医学用語学Ⅱ	日本病院会会議室	9名
④	7月18日	医学用語学Ⅲ	日本病院会会議室	10名
⑤	9月12日	品質管理Ⅰ	日本病院会会議室	10名
⑥	10月17日	品質管理Ⅱ	日本病院会会議室	14名
⑦	11月7日	診療録管理室運営Ⅰ	日本病院会会議室	6名
⑧	12月5日	診療録管理室運営Ⅱ	日本病院会会議室	7名
⑨	1月30日	診療録管理室運営Ⅲ	日本病院会会議室	7名

⑩ 3月6日 診療録管理室運営Ⅳ 日本病院会会議室 9名

なお、メディカル クラーク通信教育と合同の医学セミナーについては、メディカル通信教育の項参照のこと。

第13. メディカルクラーク通信教育

1. 第5回認定証授与式

昭和56年10月9日(金)午後5時～7時30分

会 場：東京麹町 ダイヤモンドホテル

認 定 者：57名

追加認定者：7名(57.3.15付)

2. 試 験

○第5期生後期試験

昭和56年8月23日(日)午前9:00～午後4:00

東京会場(早稲田速記学校) 40名

京都会場(ビル 葆 光) 23名

合 格 57名

不合格 6名

○第6期生前期試験及び追再試験

昭和57年2月14日(日)午前9:00～午後4:00

東京会場(早稲田速記学校) 前期試験 35名

後期試験 2名

京都会場(関西セミナーハウス) 前期試験 18名

後期試験 3名

合 格 57名

不合格 1名

3. スクーリング(第6期生)

1) 前期(56.8.20～26)

8/20 (木)	8/21 (金)	8/22 (土)	8/24 (月)	8/25 (火)	8/26 (水)
東 京 地 区			近 畿 地 区		
早 稲 田 速 記 学 校			ビ ル 葆 光		
延 受 講 者 数 138名			延 受 講 者 数 107名		

2) 後期 (57. 2. 11 ~ 17)

2/11 (木)	2/12 (金)	2/13 (土)	2/15 (月)	2/16 (火)	2/17 (水)
近畿地区			東京地区		
関西セミナーハウス			早稲田速記学校		
延受講者数 98名			延受講者数 62名		

4. 医学セミナー

①	4月18日	内科学その4	7名
②	5月16日	” 5	8名
③	6月27日	” 6	8名
④	7月25日	解剖学その1	23名
⑤	9月26日	” 2	16名
⑥	10月24日	” 3	12名
⑦	11月28日	” 4	10名
⑧	12月19日	” 5	7名
⑨	1月23日	” 6	6名

第14. 事務長養成課程通信教育

1. 第2回認定証授与式

昭和56年7月18日(土)午後5時～7時30分

会場：東京麹町 半蔵門会館

認定者：6名

2. 試験

○第2回生第2年次後期試験

昭和56年6月6日(土)午前9:00～午後4:00

会場：滋賀大津 大塚比叡山荘

合格：6名

○第3回生第1年次後期試験(56.7.5午前9:00～午後4:00)

合格 9名 不合格 2名 (56.1の不合格者) 3名
再試験合格

第3回生第2年次前期試験(57.1.18午前9:00～午後4:00)

合格 10名 不合格 2名 (56.7の不合格者) 2名
再試験合格

○第4回生第1年次前期試験(57.1.10午前9:00～午後4:00)

合格 12名 不合格 1名

会場は夫々聖路加国際病院第2記念館

3. スクーリング

1) 前期(56.7.6～18日) 会場：聖路加国際病院第2記念館

7/6 (月)	7 (火)	8 (水)	9 (木)	10 (金)	11 (土)	13 (月)	14 (火)	15 (水)	16 (木)	17 (金)	18 (土)
第3回生第2年次前期 出席延人員 76名						第4回生第1年次前期 出席延人員 94名					

2) 後期(57.1.11～23日) 会場：聖路加国際病院第2記念館

1/11 (月)	12 (火)	13 (水)	14 (木)	15 (金)	16 (土)	18 (月)	19 (火)	20 (水)	21 (木)	22 (金)	23 (土)
第4回生第1年次後期 出席延人員 81名						第3回生第2年次後期 出席延人員 67名					

第 15. セ ミ ナ ー

1. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1 回
2. 開催期日 8 月 20 日 (木) ～ 21 日 (金)
3. 開催地 東京都 番町共済会館
4. 参加者数 106 施設 219 名
 - ① 「医療技術」 (先端技術の将来を考える) 東京大学医学部 教授 古川 俊之
 - ② 「看護管理」 (業務管理を中心として) 元筑波大学附属病院 看護部長 赤岡 茂子
 - ③ 「基準看護のありかたと問題点」 厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原 信吾
 - ④ 「源氏物語の美と永遠性」 独協大学 教授 河北 騰
 - ⑤ 「看護補助者と業務」 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子
5. 総 評

年々参加者が増加し、遂に 200 名を越え北は北海道から南は福岡県まで 219 名の多きに達した。内容的にも現在総婦長、婦長が最も関心の深いものを取り上げ、その中に一般教養も含め盛会裡に終了した。

2. 事務長セミナー

1. 開催回数 1 回
2. 開催期日 昭和 57 年 1 月 22 日 (金) ～ 23 日 (土)
3. 開催地 東京都 番町共済会館
4. 参加者数 65 施設 71 名
5. 演 題
 - 1) 「これからの医療と病院管理」 厚生省病院管理研究所 所長 佐分利 輝彦
 - 2) 「現行医療への提言 — 報道機関の立場から —」 朝日新聞東京本社 モダンメディスン副編集長 楠 林 信正
 - 3) 「省エネルギーを考えたこれからの施設管理」 聖路加国際病院 事務長 上 林 三郎
 - 4) 「病院経営危機に直面する医療事務機能の改革と今後の方向」 東京都済生会中央病院 事務長 黒 田 幸 男
 - 5) 「新事務長論」 北里大学 教授 井 上 昌 彦

6. 総 評

昭和45年に開催してから数えて、12回目をむかえた今回は、従来と趣きを変えて、講師一人あたりの講演時間を多く設定し、内容の充実をはかるとともに、参加者と共に「病院管理事務」を考えていこうということで質疑応答時間も十分にとり入れた結果、参加者は北海道から熊本県まで29都道府県より71名を集め、病院の管理事務に深い関心をよせる参加者の熱心さが目立ち盛会裡に終了した。なお今後の課題として積雪地よりの参加者を考慮し、もう少し早い時期の開催を検討する必要があるのではないかと思われる。

第16. 病院幹部医会

総 会

臨時総会

11月8日(日)東京 関東通信病院

1. 幹事選任の件
2. 後任副会長選任の件
3. 後任常任幹事選任の件
4. 地域幹事長選任の件
5. 顧問就任の件

第3回総会

3月13日(土)大阪 大阪赤十字会館

1. 57年度事業計画(案)に関する件
2. 57年度収支予算(案)に関する件
3. 人事に関する件
4. 55年度事業報告に関する件

幹 事 会

第3回幹事会

8月12日(水) 日本病院会会議室

1. 病院幹部医会副会長選出の件
2. 幹部医会総会、セミナー開催の件
3. 人事異動の件

総 評

会員組織の拡大を図り、飛躍を期すことが目下の急務であることから、人事問題には十分意をそそいだ。また幹部医会の目的である会員医師相互の自己研鑽を図るためのセミナー、親睦に関する行事のため懇親会を東京、大阪において開催したが盛り上りになお一層努めたい。

○病院幹部医セミナー

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 1) 昭和56年11月8日(日)
2) 昭和57年3月13日(土)～14日(日)
3. 開催地 1) 東京都 関東通信病院会議室
2) 大阪府 大阪赤十字会館
4. 参加者数 1) 29病院 32名
2) 26病院 31名

5. 演 題 1)
 - ① 病院の概況調査報告
 - ② 医療費改訂問題について
 - ③ 医療資源の有効利用

シンポジウム

- ④ 院長の立場から幹部医に望む
- 2)
 - ① 見学 神戸市立中央市民病院
 - ② 病院経営におけるリーダーシップ
 - ③ 病院の経営
 - ④ 医の倫理
 - ⑤ 病院の財政問題

6. 総 評

病院幹部医としての資質向上の一助と考え開催したが、幹部医会会員の盛り上りに今一つであった。併せて懇親会も開催し親睦に努めた。

第17. 海外視察研究会

1. 第4回米国診療録管理業務MRL研修視察

8月11日(火)～8月20日(木) 10日間

サンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルル

参加者 24名

コーディネータ 高橋 政 祺

2. 西独救急医療とプライマリ・ケア視察

8月22日(土)～9月5日(土) 15日間

ベルリン、ハイデルベルグ、カールスルーエ、ミュンヘン、ウイーン

参加者 14名

コーディネータ 波多野 誠

3. AHAアメリカ病院協会総会参加とホスピタルショウ視察

中 止

4. 第22回国際病院学会IHFSidニー大会参加と病院視察

10月16日(金)～10月28日(水) 13日間

オーストラリア、ニュージーランド

参加者 24名

コーディネータ 吉岡 観 八

5. 中国病院視察とシルクロード敦煌への旅

11月11日(水)～11月24日(火) 14日間

天津、北京、蘭州、敦煌、酒泉、西安、上海

参加者 16名

コーディネータ 河野 稔

第18. 調 査 室

1. 開催回数 11回（全国公私病院連盟との協力調査委員会を含む）

2. 延出席者数 80名

3. 協議項目

- 1) 昭和56年度協力調査について
- 2) 協力調査「覚え書」について
- 3) 病院部門別原価計算について
- 4) その他

4. 総 評

本年度は全国公私病院連盟と協議を重ねた結果、協力調査を実施することになり、協力調査に関する「覚え書」を取りかわして、6月に「病院運営実態分析調査」を実施した。また「病院部門別原価計算調査」は合同調査として、2回の講習会を開催し延500名が参加、10月に調査を実施した。

その結果「病院運営実態分析調査」は953病院の回答を得、2月末に「病院概況調査報告書」として発刊した。また「病院部門別原価計算調査」についても近々集計がまとまる予定である。

来年度は本年度の協力調査からさらに合同調査として実施し、より充実した調査を行う予定である。

第19. 病 院 大 会

1. 名 称 病院医療危機突破全国大会
2. 開催日時 昭和56年 8月26日(水)
3. 開催場所 日本都市センターホール 東京都千代田区平河町2-4-1
4. 主 催 社団法人 日本病院会
5. 協 賛 社 日 本 看 護 協 会 社 日 本 病 院 薬 剤 師 会
社 日 本 栄 養 士 会 社 日 本 放 射 線 技 師 会
社 日 本 臨 床 衛 生 検 査 技 師 会 社 日 本 作 業 療 法 士 協 会
社 全 国 病 院 理 学 療 法 協 会 社 日 本 理 学 療 法 士 協 会
日 本 病 院 会 政 治 連 盟
山 形 県 病 院 協 議 会 社 福 島 県 病 院 協 会
群 馬 県 私 立 病 院 協 会 社 埼 玉 県 公 的 病 院 協 議 会
社 神 奈 川 県 病 院 協 会 社 山 梨 県 病 院 協 会
新 潟 県 病 院 協 会 社 静 岡 県 病 院 協 会
社 愛 知 県 病 院 協 会 社 岐 阜 県 病 院 協 会
社 三 重 県 病 院 協 会 社 滋 賀 県 病 院 協 会
京 都 府 病 院 協 会 社 京 都 私 立 病 院 協 会
社 大 阪 府 病 院 協 会 社 大 阪 府 私 立 病 院 協 会
奈 良 県 病 院 協 会 社 和 歌 山 県 病 院 協 会
兵 庫 県 病 院 協 会 社 兵 庫 県 私 立 病 院 協 会
富 山 県 公 的 病 院 長 協 議 会 石 川 県 病 院 協 会
社 岡 山 県 病 院 協 会 社 広 島 県 病 院 協 会
鳥 取 県 病 院 協 会 社 島 根 県 病 院 協 会
山 口 県 病 院 協 会 社 福 岡 県 病 院 協 会
長 崎 県 医 師 会 病 院 部 会 38団体
6. 来 賓 国 会 議 員 5 名 社 日 本 精 神 病 院 協 会

7. 代表意見

- | | |
|---|--------|
| (1) 社日本病院会副会長
新千里病院院長 | 吉岡 観 八 |
| (2) 社京都私立病院協会副会長
岡本病院院長 | 岡本 隆 一 |
| (3) 社日本病院薬剤師会副会長
国立東京第二病院薬剤科長 | 吉本 与 一 |
| (4) 日本栄養士会理事長 | 難波 三 郎 |
| (5) 社日本臨床衛生検査技師会副会長
順天堂大学医学部附属順天堂医院技師長 | 藤沢 武 吉 |

8. 次 第 (1) 開会宣言

- (2) 議長団選出
- (3) 会長あいさつ
- (4) 協賛団体紹介
- (5) 来賓あいさつ
- (6) 祝電披露
- (7) 基調報告
- (8) 代表意見
- (9) 大会決議
- (10) 陳情団編成
- (11) 陳情団代表あいさつ
- (12) 閉 会

9. 陳 情 先 厚生省

大 蔵 省

中央社会保険医療協議会

10. 大会参加人員 900名

〔総 評〕

今大会は、昭和56年6月1日付で改定された健康保険診療報酬は、医療水準の向上と、物価、人件費の増高について十分な考慮がなされておらず、実質的な医療費の引き下げとなり、医療の中核である病院の財政的窮迫状態をまねき、病院医療の崩壊を生じつつあるとの全国38病院団体の総意にもとづき、全国から一般参加者900名、国会議員等来賓、その他関係者等あわせて約1,000名が参集した。

大会は、演壇後方に「正しい病院医療が行える医療体制の実現」—— 病院医療費の即時再是正—— など5本のスローガンの掲げられる中で、内藤大会長のあいさつに始まり、38の協賛団体の紹介 国会議員などの来賓あいさつ、各団体の代表意見などが行なわれた。つづいて、大会決議(別掲) を満場一致で採択、陳情団を結成し、「病院医療費の即時再改定」を近日中に陳情することとなった。

第20. 第7回日本病院学会

1. 学 会 長 岡 本 道 雄 (神戸市立中央市民病院院長)

2. テ ー マ 医の光と波

3. 開催期日 9月4日(金)～6日(日)

4. 開 催 地 兵庫県神戸市

5. 会 場 神戸国際会館

6. 演 題

1) 特別講演 3題

「環境都市づくりと健康」 神戸市長 宮 崎 辰 雄

「文化の交流」 作 家 陳 舜 臣

「世界と日本の医療の動向」 NHK医療番組チーフディレクター 行 天 良 雄

2) 学会長講演 1題

「心とからだ」 神戸市立中央市民病院 院長 岡 本 道 雄

3) パネルディスカッション 1題

「私の行なってきた病院経営」——私的病院の生きる道——

座長 社 日本病院会常任理事 岡 山 義 雄
岡 山 病 院 院 長

演者 太 刀 洗 病 院 院 長 森 重 福 美

京 都 四 条 病 院 院 長 中 野 進

総 合 大 雄 会 病 院 院 長 伊 藤 研

西 能 病 院 院 長 西 能 正 一 郎

京 浜 病 院 院 長 熊 谷 頼 明

藤 間 病 院 院 長 藤 間 弘 行

4) シンポジウム 2題

「高齢化社会と医療」

司 会 京 都 大 学 医 学 部 老 年 科 ・ 神 經 内 科 教 授 山 正 邦

演 者 神 戸 大 学 医 学 部 内 科 教 授 田 拓 男

東京都老人総合研究所看護学研究室研究員 鎌田 ケイ子
 (社)日本理学療法士協会会長 松村 秩
 東京都養育院附属病院リハビリテーション部理学診療科長
 神戸市立中央市民病院神経内科部長 小松 隆
 済生会兵庫県病院栄養給食科長 坂本 豊子
 大阪府立大学社会福祉学部教授 奈倉 道隆

「医療の進歩に伴う病院の諸問題」

司会 厚生省病院管理研究所所長 佐分利 輝彦
 演者 公立豊岡病院院長 浅野 定
 神奈川県衛生看護専門学校附属病院 看護部長 松沢 孝子
 東京都済生会中央病院事務部長 黒田 幸男
 関東通信病院薬剤部長 斎藤 太郎
 (社)日本病院会副会長 吉岡 観八
 新千里病院院長

5) 教育講演 2題

「虚血性心疾患の現況と治療」 国立循環器病センター 院長 曲直部 寿夫

「看護管理の変遷と今日の課題」 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

6) 一般演題 208題

7. 参加者 延べ4,000名

8. プログラム (別掲)

第7回日本病院学会日程表

時間 会場 期日	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9月4日(金) 第一日	第一会場	受	付	開 会 式	特別講演 (高崎辰雄) 「環境都市 づくりと健 康」	学会長講演 (岡本道雄) 「心とから だ」	評議員会 (国際ホ テル) 6F	臨床的研究・ 医の倫理 (1~12)	シンポジウム(司会・龜山正邦) 「高齢化社会と医療」		教育講演 (曲直部寿 夫) 「虚血性心 疾患の現況 と治療」	医療人の集い・学会長招宴 (船上パーティー)		
	第二会場							地域医療(13~19) 医事業務の自動化 (20~24)						
	第三会場				(休 憩)			看護 I (25~31) 職員管理(32~36)						
	第四会場							病歴管理(37~44) 患者管理(45~48)						
	展示場				ホスピタルショー			産業貿易展示館(サンポーホール)						
9月5日(土) 第二日	第一会場	受	病院管理 (49~64)		特別講演 (陳舜臣) 「文化の交 流」	休		学会 総会	特別講演 (行天良雄) 「世界と日 本の医療の 動向」	シンポジウム (司会・佐分利輝彦) 「医療の進歩に伴う病院の 諸問題」	パネルディスカッ ション (座長・岡山義雄) 「私の行ってきた 病院経営」			
	第二会場	救急医療(65~74) 老人医療(75~80)												
	第三会場	付	看護 II (81~87) 窓口業務(88~96)					憩						
	第四会場	給食・栄養 (97~112)												
	展示場				ホスピタルショー			産業貿易展示館(サンポーホール)						
9月6日(日) 第三日	第一会場	受	看護 III (113~133)		教育講演 (内田節子) 「看護管理 の密着と今 日の課題」	閉 会 式								
	第二会場	病院の施設と機能(134~142) RI・X線(143~158)												
	第三会場	付	検査・診断 (159~182)											
	第四会場	薬 剤(183~195) 病院経営(196~209)												
	展示場				ホスピタルショー(産業貿易展示館)									

第21. 第22回人間ドック学会

1. 学 会 長 榎 田 良 精 (公立学校共済組合 関東中央病院長)

2. 期 日 8月28日(金)～29日(土)

3. 開 催 地 東京都 経団連ホール

4. 参加者数 377人

5. 演 題

特 別 講 演

「最近の脂質代謝の動向 —— 特に動脈硬化症との関連において —— 」

東京 逋信病院 内科部長 内 藤 周 幸
司 会 学 会 長 榎 田 良 精

臨床予防医学委員会報告

「全国人間ドック実施指定病院の実態」

日本病院会臨床予防医学委員会 鈴 木 豊 明
司 会 学 会 長 榎 田 良 精

パネルディスカッション

「人間ドックにおける超音波検査の導入」

座長 順天堂大学医学部 教授 和賀井 敏 夫
藤 間 病 院 院 長 藤 間 弘 行
日本自動化健診学会 副会長

1. 胆・肝

同 友 会 朴 承 彦
川崎医科大学 消化器内科 大 橋 勝 彦
大阪府立成人病センター 堀 内 成 人
関東中央病院 画像診断科 竹 原 靖 明

2. 乳 腺

関東中央病院 画像診断科 竹 原 靖 明
国立療養所富士病院 外科 堤 正 夫

3. 前立腺

京都府立医科大学 泌尿器科 大 江 宏

4. 討 議

シンポジウム

「人間ドック・自動化健診と集団検診——今後のあり方・システム化——」

- | | | | |
|----|----------------------|--------------------|---------|
| | 座 長 | 関 東 中 央 病 院 長 | 榎 田 良 精 |
| | | 国立公衆衛生院 衛生行政室長 | 西 三 郎 |
| 1. | 緒 言 | | 榎 田 良 精 |
| 2. | 行政側から | 厚生省公衆衛生局 地域保健課長 | 北 川 定 謙 |
| 3. | システム・ダイナミックスによるアプローチ | | |
| | | 東京都老人総合研究所 情報処理研究室 | 川 村 昇 |
| 4. | 実際面から | 藤間病院長・総合健診システム所長 | 藤 間 弘 行 |
| 5. | アンケートの結果から | 愛知県総合保険センター 副所長 | 岩 塚 徹 |
| 6. | コメント | | 西 三 郎 |
| 7. | 討 議 | | |

一 般 演 題 51題

- | | | | |
|-----|-------------|---------------------|-----------|
| I | 新技術・肥満 | 1～6 (6 題) | |
| | 座 長 | 牧 田 総 合 病 院 | 笹 森 典 雄 |
| II | 糖 代 謝 | 7～11 (5 題) | |
| | 座 長 | 東 京 都 済 生 会 中 央 病 院 | 田 中 剛 二 |
| III | 消 化 器 | 12～16 (5 題) | |
| | 座 長 | 青 森 県 立 中 央 病 院 | 金 沢 鉄 男 |
| IV | 超音波診断 | 17～23 (7 題) | |
| | 座 長 | 関 東 中 央 病 院 | 竹 原 靖 明 |
| V | 臨 床 検 査 | 24～28 (5 題) | |
| | 座 長 | 日 本 鋼 管 病 院 | 大 川 日 出 夫 |
| VI | 症 例 ・ 指 導 | 29～34 (6 題) | |
| | 座 長 | 京 都 第 二 赤 十 字 病 院 | 小 関 忠 尚 |
| VII | HDL コ、10年成績 | 35～39 (5 題) | |
| | 座 長 | 聖 路 加 国 際 病 院 | 安 藤 幸 夫 |

Ⅷ 循環器

40～46 (7 題)

座長 三 楽 病 院 伊 藤 良 雄

Ⅸ 評価・診断

47～51 (5 題)

座長 三 井 記 念 病 院 清 瀬 闊

第22. 第5回日本診療録管理学会

1. 学会長 澤崎博次（関東通信病院長）

2. 期 日 昭和56年10月15日（木）～16日（金）

3. 会 場 日本教育会館（東京・千代田区）

4. 演 題

◦ 特別講演 2題

「病院管理からみた診療録の重要性」

澤崎博次

「立遅れた日本の診療録の現状とその問題解決」

日野原重明

◦ 特別報告 1題

「診療記録の管理、利用の現状について」

蔵山幹男

◦ シンポジウム 3題

「診療録の利用」

座長 犬塚貞光

「診療録の情報処理」

座長 開原成允

「診療録の整理保存」

座長 藤野臻策

◦ 一般演題 43題

◦ 指定課題 5題

5. 参加者数 576名

7. 事務管理コーナー

開 会 接 拶
およびテーブルカット :

社団法人 日本病院会会長 内 藤 景 岳
社団法人 日本経営協会理事長 高 橋 松三郎
'81国際モダンホスピタルショウ
実行委員長 河 野 稔

(敬称略)

入 場 者 実 績 :	第 1 日	5 月 14 日 (木)	8, 750 人
	第 2 日	5 月 15 日 (金)	7, 240 人
	第 3 日	5 月 16 日 (土)	13, 590 人
	第 4 日	5 月 17 日 (日)	9, 630 人
	合 計		39, 210 人

特 別 事 業

- (1) 老人医療と福祉コーナー
- (2) 災害時用非常備蓄食品コーナー

付 帯 事 業

- (1) 特別教育講演会～ガンのたたかい～
- (2) マザー・テレサパネル展
- (3) 手術台のうつりかわり今昔パネル展
- (4) 地震対策パネルコーナー
- (5) 防災パネルコーナー
- (6) 病院における身近なシステム化PART-IIパネルコーナー
- (7) 医療関係図書即売コーナー
- (8) 献血コーナー

そ の 他

- (1) '81国際モダンホスピタルショウ出品社に対して5月17日ホスピタルショウ会場において実行委員長河野稔氏より感謝状を手渡した。
- (2) '81国際モダンホスピタルショウ優秀賞に3社決定
 - 1) 財医療情報システム開発センター
 - 2) ドッドウェルピッニーボウズ(株)
 - 3) 日本病院団体連合会6月13日(土)に(社)日本病院会会長内藤景岳氏より会長室において賞状と楯を授与した。

薬価基準引き下げと医療費改定の

同時実施に関する要望書

病院経営は過去三カ年間据置かれた低医療費により、その運営は極めて困難となり職員の待遇改善も意の如くならない現状です。

聞くところによれば、薬価基準引き下げと医療費改定はそれぞれ別個に行われ、薬価基準引き下げが先行するとの情報もありますが、病院経営の健全化を図り、国民の健康増進に寄与するためには、薬価基準引き下げと、医療費改定は少なくとも同時に実施されるとともに、医療費の大巾引き上げを強く要望します。

昭和五十六年四月二十一日

社団法人 日本病院会

会長 内藤景岳

殿

要 望 書

昭和56年 月 日

殿

社団法人 日本病院会
会長 内 藤 景 岳

税 制 改 正 に つ い て

わが国の病院経営は、公的医療機関のみならず私的医療機関にあつても、高度な公益性を要求されております。

医療法規における非営利性の基本理念は、近時益々社会的な要請となつておりますが、医療の経営税制は営利社団たる会社等と同様の取扱いを受けているばかりでなく、産業振興の政策目的のものに比較して衡平を失する取扱いのように見受けられます。国家としての政策の一貫性、整合性の上からも、医療と国民保健の充実を期し、医療経営の健全な発展と安定を図るため、その重要性に比肩する取扱いに改正されるよう、昭和57年度の税制改正について別紙事項の如く要望するものであります。

1 国 税 関 係

(1) 所得税、法人税関係

- | | |
|--|---|
| <p>1.) 救急医療の緊急な拡充を図るため、救急医療準備金制度を創設すること。</p> | <p>措置法第20条第1項。
同法第54条第1項、
同法第55条第1項
(方式を準用)</p> |
| <p>2.) 救急医療等の補助金について、救急用の固定資産を取得した場合は、その取得価格までを限度に補助金相当額の圧縮記帳による損金算入を認めること。
(所得税にあっては総収入金額より除外すること。)</p> | <p>措置法第37条第1項。
同法第65条の7第1項
(方式を準用)</p> |
| <p>3.) 病院用建物および建物附属設備について、法定耐用年数を短縮すること。</p> | <p>耐年省令別表第1</p> |
| <p>4.) 特定の医療法人の承認申請に際し、現在の医療実施の一般水準に照らして、その承認要件を緩和すること。</p> | <p>行政指導取扱い内容</p> |
| <p>5.) 措置法第40条の承認による贈与(遺贈も含む)がなかったものとみなされた財産提供については、特定の医療法人成立後も法人税を非課税とすること。</p> | <p>措置法第40条第1項</p> |
| <p>6.) 非常勤医師の給与所得源泉徴収額は所得税法第204条の適用若しくは月額表甲欄扶養親族等の数0人の欄適用の特例を設けること。</p> | <p>所得税法第204条第1項(準用)</p> |

(2) 相続税

- | | |
|---|-----------------|
| <p>1.) 医療法人社団の出資持分について、法人の非営利性、剰余金配当禁止に適合するよう相続税財産評価を払込済出資額とすること。</p> | <p>相、評基通195</p> |
|---|-----------------|

なお、その出資額評価方法を財産評価基本通達に独立条文として明記すること。

- 2.) 医療法人社団の出資持分割合50%未満の出資者グループについては、同族会社等と同じく財産評価額の80%評価とすること。

(3) 物 品 税

- 1.) 看護婦、臨床検査技師その他医療技術者の養成施設において、直接教育の用に供する機器、器具、備品について物品税を免除すること。
- 2.) 病院並びに診療所等の診療施設が直接診療の用に供する機器、器具、備品について、物品税を免除すること。

相・財評基通188(6)但し書

物品税法第22条

物品税法第22条

[(註)施行規則別表6、金属性ベット、血液保存用電気冷蔵庫は指定あり。]

実態はその軽減の有無、並びにその軽減の対象内容とも不均一であるため、全国的に統一的な軽減措置を講ずること。

- 2.) 救急病院等の救急医療用機器の課税標準価格5分の4に関する適用期限を昭和57年4月以降も引続き延長すること。
- 3.) 医療法人等が営む看護学院等の教育の用に直接供される看護実習病院の指定を受けた不動産並びに器材については固定資産税を減免すること。
- 4.) 特定指定地域における耐震用建築物、設備の固定資産税を減免すること。
- 5.) 救急医療用に待機する従業員を宿泊させている病院敷地内若しくは近接地の従業員宿舍の固定資産税を減免すること。

(3) 電気税・ガス税

- 1.) 病院が使用する電気、ガスについての電気税、ガス税を減免すること。

(4) 不動産取得税

- 1.) 特定指定地域における耐震用建築物設備の取得に際しての不動産取得税を減免すること。

地方税法附則第15条第18項

地方税法第6条
同法第367条

地方税法第6条
同法第367条

地方税法第6条
同法第367条

地方税法第489条(準用)
同法第489条の2(準用)

地方税法第73条の14
(準用)

2 地 方 税 関 係

(1) 事 業 税

- 1.) 事業税の社会保険診療報酬外の課税標準額計算について、各都道府県における計算基準の相違が著しいため、合理的で簡易な東京都方式(収入による所得按分方式)をもって全国的に統一すること。
- 2.) 医療法人等が営む看護婦、臨床検査技師その他医療技術者の養成施設の授業料、入学金等の収入については事業税の課税対象収入より除外すること。

地方税法第72条914
第1項
同法第72条の17第1
2項

地方税法第72条の5
2項(準用)

(2) 固 定 資 産 税

- 1.) 医療保健業に対する全国各市町村の課税

地方税法第6条第2項

声 明 書

政府は昭和五十六年六月一日より医療費の引き上げを八・一％と公示しているが、同時に薬価基準を一八・六％（医療費に換算して六・一％となる。）引き下げたことにより、昭和五十三年二月より三年四カ月の間に僅か二％の引き上げとしかならない。しかも点数表の大巾組替えにより、病院・診療所はいずれも、医療費は実質的な引き下げとなり、大きな不安と混乱をきたしている。特に、医療費引き上げの予算措置も講ぜず、既に獲得している医療費の枠を大巾に削り、これを引き上げの財源として利用し、国民並びに医師には大巾な値上げをしたと称することは医師・国民を欺まんするも甚だしきものである。医の倫理観の低下と、医療の荒廃をきたす素地を醸成しているのは政府みずからである。速やかに、実情を把握し、誤った行政を直ちに改善されんことを強く望む。

日本病院会は国民の健康と福祉を守るために今こそ結束して重大な決意を表明するものである。

昭和五十六年六月十三日

社団法人 日本病院会

会長 内藤景岳

殿

昭和56年9月 日

非常勤医師の源泉所得税徴収に関する
取扱いについての要望趣旨

大蔵大臣 渡辺美智雄 殿

非常勤医師の源泉所得税徴収に関する
取扱いについての

要 望 書

(社) 全日本病院協会
(社) 日本医療法人協会
(社) 日本病院会
全国厚生農業協同組合連合会
全国済生会病院長会

山形県病院協議会
(社) 福島県病院協会
栃木県病院協会
埼玉県公的病院協議会
(社) 神奈川県病院協会
東京病院協会
(社) 山梨県病院協会
新潟県病院協会
(社) 愛知県病院協会
岐阜県病院協会
(社) 三重県病院協会
(社) 滋賀県病院協会

京都府病院協会
(社) 京都私立病協会
(社) 大阪府病院協会
(社) 大阪府私立病院協会
奈良県病院協会
(社) 和歌山県病院協会
兵庫県病院協会
(社) 兵庫県私立病院協会
富山県公的病院協議会
(社) 岡山県病院協会
(社) 広島県病院協会
島根県病院協会
(社) 山口県病院協会
(社) 福岡県病院協会

日本医療法人協会 香川県支部
日本医療法人協会 山口県支部

現在、全国の病院、診療所は、その官公私立を問わず、非常勤医師の給与に関する源泉所得税の徴収について、その過重な負担に苦慮しております。

非常勤医師は、医科大学、大学医学部等の医局に勤務する医師あるいは官公立に勤務する医師が主力でありまして、その主たる勤務先での給与は研究あるいは研修を主体とする関係上、比較的到低額であります。

本来、給与は税込金額によって定められるのを通例としておりますが、医療界にあっては従来より純手取り額による契約が一般的慣行となっており、そのため源泉税納付額は、徴収義務者たる病院側等の負担になっているのが実情であります。

従たる給与に適用される月額表乙欄、日額表乙欄の源泉所得税徴収額は、主たる給与の上積みという性格から、割高な率になっていることは周知の事実であります。

そのため非常勤医師の多くは、主たる給与の支給先である大学等では、徴収税額は極めて少なく、従たる給与の支給先である官公私立病院からは極めて多く徴収されているのであります。

従って翌年3月15日までの確定申告期限までに、確定申告した者は50-100万円前後の税金還付となることがほとんどであります。内閣府に相当多数の者が還付の権利を放棄しているとのことであります。

それ故

- 1) 扶養控除等申告書を提出していない勤務の対価であること。
(報酬または料金とみなす)
- 2) 医師又は歯科医師であり、診療に関する業務に従事すること
による対価であること。

である場合には、その支給に際し、源泉徴収する徴収税額は、所得税法第204条第1項第2号該当等の10%等の源泉徴収を行うことを準用して徴収納付しても差支えない取扱いを是非実施して頂きたいのであります。

それによって、課税上とくに弊害がないものと思っておりますので、この段に及び要望申上げる次第であります。

決 議

病院診療報酬はさる六月、三年四カ月ぶりに改定されたとはいえ、病院の経営に対する配慮を欠いたため、改定による病院収益はマイナスとなり、病院経営は悪化の一途をたどっている。

このような診療報酬改定直後の経営悪化は、これまで前例をみないところである。

その原因は、原価の低下したものの（薬剤・検査等）について、診療報酬を引き下げたことは、妥当性があるものの、物価・賃金の上昇、医療水準の向上に比例して原価の上昇したものの、医師・看護婦・薬剤師等、パラメディカルの技術料の適正評価が行われていなかったもの（一般の高度手術料・看護料・入院室料・調剤料・理学療法料等）への配慮を欠いたためである。

この状態が放置されるならば、国民医療を支える病院経営の破たんをまねき、ひいては、国の医療水準を維持できない恐れが大きい。

われわれ病院関係者は、正しい医療を守るためにも、政府ならびに関係当局が、速やかに次の措置をとるよう要求する。

記

一、病院診療報酬の原価割れ点数を速やかに是正すること。

一、中医協が十月に実施する「医療経済実態調査」を、六カ月以内に公表すること。

一、中医協に四専門委員会（病院・診療所・歯科診療所および薬剤）を設け、診療報酬体系の抜本的改革を実施すること。

右決議する

昭和五十六年十一月四日

全国病院開設者・病院長集会

（参加団体）別紙の通り

昭和 56 年 12 月 日

殿

社団法人 日本病院会
会長 内藤景岳

地方税法の改正による税負担増に対する
要 望 書

昨今、病院の経営環境は極めて悪化し、診療報酬改定も実質的低下を招来し、極めて容易ならざる事態となっております。かかる情勢下において、病院経営者は、危機打開の方策を懸命に模索し、その対策に日夜努力しているところであります。

税制につきましては、すでに医療の公共性を保持できるように改正されることを要望しておりますが、今般税制見直しに際して、

- 1) 地方税法附則第 15 条 17 項の救急医療用機器の課税標準の 4/5 にすることの廃止
- 2) 地方税法第 72 条の 22 第 4 項 12 号の医療法人を特定医療法人に改正（医療法人を第 1 項 2 号の特別法人扱いの廃止）が検討されていると伝え聞きました。このような改正の動き

に対して、当会は断固反対するものであります。

収入面でのきびしい抑制と、税制面での実質的負担はさらに病院経営を疲弊に導き、わが国医療の前途に重大な影響を与えずにはおきません。

救急医療用機器の課税標準額の 4/5 制度、医療法人の特別法人扱いについては、現行のまま存続されることをここに強く要望いたします。

昭和57年2月23日

殿

社団法人 日本病院会
全理事会

医療金融公庫と他の公庫との統合案に対する要望

昨今の新聞等の報道によれば、第二臨時行政調査会の構想として金融公庫を廃止して、他公庫に合併もしくは統合するという案が検討されていると思料されますが、医療関係団体としての、(社)日本病院会は、断固として反対の意志を表明するものであります。

昭和56年6月の薬価改定および、診療報酬の改正が、われわれ医療担当者にとって、大きな打撃を受けたことは、ご承知のとおりであります。

加えて低成長時代を迎え、金融事情も好転せず、今や医療機関は軒なみに危殆に瀕しているといっても過言ではありません。

また、昨今特に叫ばれている地域医療体制の整備、医療の高機能化を図るうえからも公庫の存在は、必要欠くべからざるものであると信じます。

以上の理由により政策金融機関としての医療金融公庫の存続をここに強く要望する次第です。

声 明

転換期に立つ国民医療

わが国の高度経済成長に伴い、昭和五十七年度の国民医療費は約十四兆円が見込まれているが、今や低経済成長時代にあたり国土防衛問題が注目をあびるとともに、二十一世紀に向けて高齢化社会が到来してきた。

一方ME機器の開発にもとづき医学・医療は専門化し、高度化するともに、国民医療は今や病院医療を中核にすべき転換期に立ち至っていると言わざるを得ない。

さて戦後の医療は国民の平均寿命を世界最高に延長し、国家の生産性の向上に多大の貢献をしたことは周知の事実である。

しかしながら今日までの国民医療の運営は、診療所と医師会病院を中心とした日本医師会主導型にして、必ずしも普遍性があるとは言い難い。

そもそも、日本の医療は開業医と公・私病院が医療福祉の要請に応じ、国民の健康を守るため、それぞれの機能を發揮してきた。日本医師会の現況をみるに今日の多彩な病院団体をはじめ、医学研究教育団体、医師会を集約指導することは極めて困難であり、体質を改善し、抜本的機能改革のもとに、民主的運営を計り、病院とともに手を携えて車の両輪としてそれぞれの機能を發揮し、国民医療を適正に推進すべきである。

また、厚生省・大蔵省も医療費抑制策に専念することなく、国民医療の中核をなす病院担当者を各種諮問委員会に参画せしめ、国民医療の円滑な推進を計るべきである。

国民は皆保険制度の下において九九%が健康保険に加入している今日、患者と医師の信頼関係の回復に努めるとともに、医師はもとより患者も倫理を守らねばならない。

すべての病院は自浄作用に十分留意し、いやしくも国民の期待に反するが如き医療行為は慎しむとともに、高度経済成長時代の遺産にこだわることなく、大同団結して、減速経済成長にふさわしく、かつ高齢化社会の医療に見合う国民医療に大きく転換すべき時期であり、その対応に遺漏なきを期するものである。

右 声明する。

昭和五十七年三月二十三日

社団法人 日本病院会

第十八回定期代議員会

第十五回定期総会

各 位

要 望 書

昭和57年3月

大 蔵 大 臣
渡 辺 美 智 雄 殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



われわれは、医療法人社団の出資持分ならびにその他病院に関する相続税財産評価問題をはじめ、事業承継税制について、つとに問題提起を行ってまいりました。

このたび、政府税制調査会、自民党税制調査会等からの答申をうけて、大蔵省内に中小企業事業承継税制に関する懇談会発足の報に接し、各団体といたしましても、その代表を参加させていただくかもしくは意見具申の機会を与えていただけるよう特別のご配慮のほどを、ここにお願ひ申し上げます。

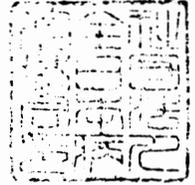
以 上

中小企業事業承継税制懇談会についての
その参加もしくは意見具申に関する要望

昭和57年3月

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



パート医師の報酬について（お願い）

謹啓 病院への医師の派遣についてかねてより格別のご協力をいただき感謝いたしております。

最近、病院の経営状況悪化及び税務調査の実情にかんがみ、国税庁指摘の次第もあり次のとおり申しあわせをいたしました。

1. パート医師の給与は原則として、各病院の常勤の医師の給与額と見合うものとする。
2. 給与はすべて税込み金額とする。
3. 以上の措置に基き各パート医師に年末の確定申告が義務づけられているのでこれを徹底されたい。

以上の状況を御賢察のうえ、所属医師全員に上記の諸項目が徹底するよう御指導を賜わりたくお願い申し上げます。

敬 具

社団法人 日本病院会 役員名簿 (自昭和55年4月1日 至昭和58年3月31日) (順不同)

役職名	都府道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
会 長	大阪府	内藤 景岳	総合病院南大阪病院	医療法人	5 5 9	大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18	06-685-0221
				自宅	5 5 8	住吉区帝塚山中 1-8-9	06-673-4130
副 会 長	長野県	若月 俊一	総合病院	厚生連	384-03	南佐久郡臼田町大字臼田 197	02678-2-3131
				自宅	〃	〃 2211-2	02678-2-2045
〃	東京都	河野 稔	北品川総合病院	公益法人	1 4 0	品川区北品川 1-23-19	03-474-0023
				自宅	1 5 0	渋谷区南平台 4-8 アジアマンション207	03-463-2455
〃	大阪府	吉岡 観八	新千里病院	〃	5 6 5	吹田市津雲台 1-1-D6	06-871-0121
				自宅	5 4 5	大阪市阿倍野区北畠 3-9-11	06-661-3877
〃	富山県	村田 勇	富山県立中央病院	都道府県	9 3 0	富山市西長江 220	0764-24-1531
				自宅	〃	〃 暁町 県公舎	0764-21-7658
常任理事	埼玉県	秋山 博	済生会川口総合病院	済生会	3 3 2	川口市西川口 5-12-1	0482-53-1551
				自宅	3 3 6	浦和市本太 3-16-8	0488-82-4358
〃	〃	池谷 亘	蕨市立病院	市町村	3 3 5	蕨市北町 2-12-18	0484-32-2277
				自宅	1 6 7	杉並区南荻窪 1-7-11	03-334-5318
〃	千葉県	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	〃	289-25	旭市イ-1326	04796-3-8111
				自宅	〃	〃 イ-1863	04796-2-0368
〃	東京都	北原 哲夫	東京通信病院	国その他	1 0 2	千代田区富士見 2-14-23	03-261-8211
				自宅	1 5 6	世田谷区松原 1-15-9	03-328-5610
〃	〃	野村 秋守	野村病院	医療法人	1 8 1	三鷹市下連雀 8-3-6	0422-47-4848
				自宅	1 6 7	杉並区善福寺 2-21-17	03-397-2026
〃	〃	高山 瑩	高山整形外科病院	医療法人	1 2 5	葛飾区金町 3-4-5	03-607-3260
				自宅	2 7 1	松戸市矢切 488-28	0473-62-0655
〃	神奈川県	大野 松次	京浜総合病院	〃	2 1 1	川崎市中原区新城 1-2-5	044-777-3251
				自宅	1 6 6	杉並区高円寺北 2-22-3	03-337-4495
〃	〃	平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個人	2 2 2	横浜市港北区菊名 7-1-11	045-421-8945
				自宅	〃	〃	045-421-8946
〃	静岡県	榎本 敏雄	静岡厚生病院	厚生連	4 2 0	静岡市北番町23	0542-71-7177
				自宅	〃	〃 安東 1-19-21	0542-45-3970
〃	〃	細川 一郎	静岡赤十字病院	日 赤	4 2 0	静岡市追手町 8-2	0542-54-4311
				自宅	〃	〃 大岩本町 5-17	0542-45-3226
〃	愛知県	岡山 義雄	岡山病院	医療法人	4 6 0	名古屋市中区栄 1-30-1	052-221-1851
				自宅	4 6 1	〃 東区泉 1-17-3 第2オレンジ久屋ビル8F-A	052-951-2420
〃	大阪府	二本杉 皎	大阪赤十字病院	日 赤	5 4 3	大阪市天王寺区筆ヶ崎 5-53	06-771-5131
				自宅	5 5 8	〃 住吉区帝塚山中 2-8-15	06-671-2306
〃	〃	有澤 源藏	有澤総合病院	医療法人	5 7 3	枚方市中宮東之町12-14	0720-47-2606
				自宅	〃	〃 大垣内町 1-3-39	0720-43-8360
〃	兵庫県	北村 行彦	優生病院	個人	6 6 0	尼崎市杭瀬大崩 1	06-488-1851
				自宅	666 4	伊丹市鈴原町 7-49-2	0727-81-1785
〃	岡山県	榊原 宏	榊原十全病院	医療法人	7 0 0	岡山市丸の内 2-1-10	0862-25-1921
				自宅	〃	〃 北方 3-7-41-1	0862-22-2084
理 事	岩手県	金子 保彦	岩手県立中央病院	都道府県	0 2 0	盛岡市本町通 1-1-1	0196-53-1151
				自宅	〃	〃 天神町13-20	0196-24-4852
〃	宮城県	安田 久	石巻赤十字病院	日 赤	9 8 6	石巻市吉野町 1-7-10	0225-95-4131
				自宅	〃	〃 泉町 2-1-18	0225-22-0461

役職名	都府県道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
理事	秋田県	竹本吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010 "	秋田市中通1-4-36 " 高陽青柳町14-2	0188-34-3361 0188-24-4484
"	"	安藤静男	山形市立病院済生館	市町村 自宅	990 "	山形市七日町1-3-26 " 緑町4-14-56	0236-22-5201 0236-31-2270
"	福島県	星源之助	総合会津中央病院	医療法人 自宅	965 "	会津若松市一箕町大字鶴賀字 船ヶ森東181-1 " 日新町6-17	0242-25-1515 0242-27-9087
"	群馬県	真木實真	木病院	" 自宅	370 "	高崎市筑縄町92-2 " 472-4	0273-61-8411 0273-63-2527
"	東京都	原俊夫	公立昭和病院	市町村 自宅	187 "	小平市天神町2-450 " 2-11	0424-61-0052 0424-62-8627
"	"	小林隆	日本赤十字社医療センター	日赤 自宅	150 171	渋谷区広尾4-1-22 豊島区南長崎6-6-12	03-400-1311 03-951-0705
"	"	丹羽直久	武蔵野赤十字病院	" 自宅	180 156	武蔵野市境南町1-26-1 世田谷区上北沢1-35-14	0422-32-3111 03-302-8681
"	"	堀内光	東京都済生会中央病院	済生会 自宅	108 143	港区三田1-4-17 大田区南馬込3-33-15	03-451-8211 03-771-3939
"	"	丸毛英二	東京慈恵会医科大学附属病院	学校法人 自宅	105 153	港区西新橋3-19-18 目黒区青葉台4-6-4	03-433-1111 03-467-5625
"	神奈川県	小野肇	大口病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区大口通130 " 中区石川町2-78	045-401-3861 045-641-4879
"	新潟県	亀山宏平	中央総合病院	厚生連 自宅	940 "	長岡市福住2-1-5 " 柏町2-1-30	0258-35-3700 0258-33-4475
"	山梨県	中沢忠雄	加納岩病院	医療法人 自宅	405 "	山梨市上神内川1309 " " 1229	05532-2-2511 05532-2-0059
"	長野県	小口源一郎	昭和伊南総合病院	市町村 自宅	399-41 "	駒ヶ根市上穂栄町23-1 " 4145	02658-2-2121 02658-3-8706
"	"	"	"	医療法人 自宅	"	"	"
"	岐阜県	水川勇	岐阜市民病院	都道府県 自宅	500 "	岐阜市鹿島町7-1 " 鍵屋東町3-16	0582-51-1101 0582-51-3472
"	"	藤掛敏	藤掛第一病院	個人 自宅	500 "	岐阜市一番町1 "	0582-65-5255 "
"	静岡県	長谷川豊男	静岡市立静岡病院	市町村 自宅	420 "	静岡市追手町10-93 " 上足洗1-8-25	0542-53-3125 0542-45-9587
"	愛知県	下村尚一	海南病院	厚生連 自宅	498 "	海部郡弥富町大字前ヶ須新田字 南本田396 海部郡弥富町大字利浦字中六町 85-5	05676-5-2511 05676-5-3211
"	"	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人 自宅	454 466	名古屋市中区松年町4-66 " 昭和区御器所3-3-12	052-652-7711 052-881-0306
"	"	神谷喜作	臨港病院	" 自宅	455 464	名古屋市港区名港2-9-43 " 千種区猫洞通1-3	052-661-1691 052-781-0922
"	三重県	村田清	伊勢市立伊勢総合病院	市町村 自宅	516 "	伊勢市楠部町316-2 " 中之町133	0596-23-5111 0596-22-0596
"	"	遠山豪	遠山病院	医療法人 自宅	514 "	津市南新町17-22 " 新町1-2-36	0592-27-6171 0592-28-5210

役職名	都府県道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住所	電話
理事	大阪府	豊島正忠	大阪府済生会中津病院	済生会 自宅	5 3 0	大阪市北区芝田 2-10-39	06-372-0333
					5 6 5	吹田市古江台 1-20-10	06-872-0810
“	“	河崎茂水	間病院	医療法人 自宅	597-01 “	貝塚市水間 51 “ 255	0724-46-1102 0724-46-1109
“	“	田中治東	大阪病院	“ 自宅	5 3 6 “	大阪市城東区中央 1-7-22 “	06-939-1121 “
“	兵庫県	安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村 自宅	6 5 3	神戸市長田区一番町 2-1-4	078-576-5251
					6 5 8	“ 東灘区本山北町 4-7-59-1306	078-452-7963
“	“	白井潤	神戸掖済会病院	公益法人 自宅	6 5 1	神戸市生田区中山手通 6-91	078-341-7291
					6 6 0	尼崎市東七松町 1-9-18	06-481-5669
“	“	小原知次郎	小原病院	医療法人 自宅	6 5 2 “	神戸市兵庫区荒田町 1-9-19 “ 1-11-1	078-521-1222 “
“	“	平野明	共立会病院	“ 自宅	6 7 5 “	加古川市米田町平津 596 “ 629	0794-31-0234 0794-32-3549
“	奈良県	南溢	秋津鴻池病院	“ 自宅	639-22	御所市池之内 1064	07456-2-2058
					“	“ 大字柏原 1604	07456-2-2765
“	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	“ 自宅	6 4 1	和歌山市塩屋 6-2-70	0734-44-1600
					6 4 2	海南市日方 1188	07348-2-8035
“	“	中村了生	中村病院	“ 自宅	6 4 0	和歌山市友田町 2-28	0734-31-0351
					“	“ 新内 217	0734-22-5138
“	島根県	石倉愧	松江赤十字病院	日赤 自宅	6 9 0	松江市母衣町 200	0852-24-2111
					“	“ 灘町 40	0852-21-3250
“	高知県	近藤慶二	高知県立中央病院	都道府県 自宅	7 8 0	高知市桜井町 2-7-33	0888-82-1211
					“	“ 愛宕山南町 4-37	0888-75-4220
“	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤 自宅	8 1 5	福岡市南区大楠 3-1-1	092-521-1211
					“	“ 筑紫丘 2-18-26	092-541-4401
“	熊本県	三浦義一	済生会熊本病院	済生会 自宅	8 6 0	熊本市段山本町 4-38	0963-54-9163
					8 6 2	“ 水前寺公園 12-1	0963-84-0192
“	長崎県	岩永光治	十善会病院	その他法人 自宅	8 5 0	長崎市籠町 7-18	0958-21-1214
					8 5 2	“ 平野町 21-9	0958-44-1934
監事	神奈川県	太田清一	太田総合病院	医療法人 自宅	2 1 0	川崎市川崎区駅前本町 3-1	044-244-0131
					2 4 9	逗子市小坪 4-845-15 清風庵	0468-73-3662
“	茨城県	戸川潔	茨城県立中央病院	都道府県 自宅	309-17 311-41	西茨城郡友部町鯉淵 6528 水戸市河和田町東原 149-1	02967-7-1121 0292-52-6865
代議員会 議長	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤 自宅	5 2 6 “	長浜市宮前町 14-7 “ 14-35	07496-3-2111 07496-2-2224
代議員会 副議長	東京都	河井博	河井病院	個人 自宅	1 6 1 1 7 0	新宿区西落合 1-27-10 豊島区駒込 1-13-16	03-951-9116 03-945-6068

社団法人 日本病院会顧問・参与名簿 (自昭和55年4月1日) (順不同)
至昭和58年3月31日)

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電話
顧問	神崎 三益	日本赤十字社 常任理事	105	東京都港区芝大門1-1-3	03-438-1311
		武蔵野赤十字病院 名誉院長	180	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111
		自宅	181	三鷹市井口372	0422-31-4393
"	東 陽 一	中伊豆リハビリテーションセンター 顧問	410-25	静岡県田方郡中伊豆町冷川1523-108	05588-3-2111
		自宅	412	御殿場市東田中1705-1	0550-2-1837
"	阿久津 慎名 鉄 病 院 院 長	院 長	451	愛知県名古屋市区松前町3-45	052-551-6121
		自宅	457	南区霞町78	052-811-4005
"	左奈田 幸夫 東 海 大 学 教 授	教 授	259-11	神奈川県伊勢原市望星台	0463-93-1121
		自宅	155	東京都世田谷区代田4-10-16	03-328-0830
"	小野田 敏郎 佼 成 病 院 院 長	院 長	164	東京都中野区弥生町5-25-15	03-383-1281
		自宅	176	練馬区中村南3-24	03-990-9589
参与	牛場 大蔵 日本医学教育学会 会 長	会 長	113	東京都文京区本郷2-11-7 谷ロビル5F	03-814-3592
		自宅	158	世田谷区深沢4-34-15	03-702-8071
"	倉田 正一 慶応義塾大学医学部 教 授	教 授	160	東京都新宿区信濃町35	03-353-1211
		自宅	154	世田谷区駒沢1-14-23	03-421-3089
"	佐分利 輝彦 厚生省病院管理研究所 所 長	所 長	162	東京都新宿区戸山町1	03-203-5327
		自宅	154	世田谷区下馬6-41-7	03-418-5800
"	行天 良雄 NHK家庭部チーフ・ディレクター	チーフ・ディレクター	150	東京都渋谷区神南2-3	03-465-1111
		自宅	240	神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188	045-331-2938
"	内田 卿子 (財)聖路加国際病院 総 婦 長	総 婦 長	104	東京都中央区明石町10-1	03-541-5151
		自宅	174	板橋区志村1-34-7-1004	03-969-7933

社団法人 日本病院会代議員名簿 (自昭和55年4月1日) (順不同)
至昭和58年3月31日

役職名	都府県道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住所	電話
代議員	北海道	嘉戸達也	浦河赤十字病院	日赤 自宅	057 "	浦河郡浦河町東町230 " 常盤町97	01462-2-5111 01462-2-2079
"	"	野田潔	白石中央病院	医療法人 自宅	062 003	札幌市白石区平和通3丁目北2-3 " 本通4丁目北5-23	011-861-8171 011-861-9070
"	青森県	中村登喜雄	中村整形外科病院	個人 自宅	037 "	五所川原市一ツ谷160 " 籾田町141-14	01733-4-3315 01733-4-2243
"	岩手県	倉光宏	北上済生会病院	済生会 自宅	024 020-01	北上市花園町1-6-8 盛岡市緑ヶ丘36-1	01976-4-7722 0196-61-9533
"	"	遠山美和	遠山病院	医療法人 自宅	020 "	盛岡市下ノ橋町6-14 " 7-32	0196-51-2111 0196-22-5610
"	宮城県	丹野三男	仙台市立病院	市町村 自宅	980 "	仙台市一番町4-6-1 " 広瀬町4-32	0222-66-7111 0222-22-8866
"	"	女川浩	仙台赤十字病院	日赤 自宅	980 "	仙台市五橋2-12-2 " 八幡6-10-18	0222-27-1311 0222-34-5626
"	秋田県	峯木照夫	秋田組合総合病院	厚生連 自宅	011 "	秋田市土崎港中央4-5-45 " 4-1-75	0188-45-0161 0188-45-2304
"	"	瀬戸泰士	中通病院	医療法人 自宅	010 "	秋田市南通みその町3-15 " 亀の町9-15	0188-33-1122 0188-32-6992
"	山形県	桑島治三郎	酒田市立酒田病院	市町村 自宅	998 "	酒田市千石町2-3-20 " 2-5-25	0234-23-1111 0234-22-1211
"	"	篠田秀男	篠田総合病院	医療法人 自宅	990 "	山形市桜町2-68 " 香澄町1-20-11	0236-23-1711 0236-22-7964
"	福島県	本宿尚	公立藤田総合病院	市町村 自宅	969-17 "	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14 " 小坂字北雀51	02458-5-2121 02458-5-2767
"	"	渡辺正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人 自宅	960 "	福島市北町1-40 " 腰浜町3-29	0245-22-9156 0245-34-9520
"	茨城県	三宅和夫	県西総合病院	市町村 自宅	309-12 "	西茨城郡岩瀬町大字畷田604 " 岩瀬316-1	02967-5-3171 02967-5-2318
"	"	丹野清喜	水戸済生会総合病院	済生会 自宅	310 "	水戸市末広町1-1-8 " 見和2-251-10	0292-24-2121 0292-53-0666
"	"	会沢孝	大洗海岸病院	医療法人 自宅	311-13 310	東茨城郡大洗町大貫町915 水戸市緑町1-1-6	02926-7-2191 0292-21-2349
"	"	鈴木達也	水戸協同病院	厚生連 自宅	310 311-01	水戸市宮町3-2-7 那珂郡那珂町飯田2732-9	0292-31-2371 02929-8-2576
"	栃木県	斉藤達郎	大田原赤十字病院	日赤 自宅	324 328	大田原市住吉町2-7-3 栃木市万町2-18	02872-3-1121 0282-22-0015
"	"	松本清一	自治医科大学附属病院	学校法人 自宅	329-04 320	河内郡南河内町薬師寺3311-1 宇都宮市鶴田町1704-31	02854-4-2111 0286-48-3205
"	群馬県	長洋	前橋赤十字病院	日赤 自宅	371 "	前橋市朝日町3-21-36 " 2-11-15	0272-24-4585 0272-24-7158
"	"	山崎学	山崎病院	医療法人 自宅	370 "	高崎市上佐野町501 " 柳川町169	0273-22-5140 0273-26-7534
"	埼玉県	高木紹夫	深谷赤十字病院	日赤 自宅	366 "	深谷市大字上野台856-1 " 797-1	0485-71-1511 0485-71-2634
"	"	井上寿一	上福岡中央病院	個人 自宅	356 "	上福岡市上福岡1-14-7 " 花の木1-1-5	0492-62-3131 0492-64-1156
"	千葉県	小林愿之	小見川中央病院	市町村 自宅	289-03 260	香取郡小見川町南原地新田438 千葉市西都賀3-10-18	04788-2-3161 0472-51-2594

職名	都府県道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
代議員	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人 自宅	280	千葉市長州2-21-8 " 2-21-16	0472-27-8366 0472-22-3759
"	東京都			都道府県 自宅			
"	"			" 自宅			
"	"	高橋政夫	大森赤十字病院	日赤 自宅	143 112	大田区中央4-30-11 文京区小石川5-24-21-406	03-775-3111 03-811-7972
"	"	織本正慶	織本病院	医療法人 自宅	180-04 177	清瀬市旭が丘1-261 練馬区東大泉3-38-10	0424-91-2121 03-922-1271
"	"	河井博	河井病院	個人 自宅	161 170	新宿区西落合1-27-10 豊島区駒込1-13-16	03-951-9116 03-945-6068
"	"	野村益朗	第一病院	" 自宅	125 "	葛飾区東金町4-2-10 " 4-2-3	03-607-0007 "
"	"	前沢伯彦	東京前沢整形外科病院	" 自宅	166 "	杉並区阿佐谷南2-14-3 "	03-314-5429 "
"	神奈川県	藤森一平	川崎市立川崎病院	市町村 自宅	210 153	川崎市川崎区新川通12-1 目黒区目黒4-20-27	044-233-5521 03-711-7004
"	"	大内正夫	済生会神奈川県病院	済生会 自宅	221 111	横浜市神奈川区富家町6-6 台東区柳橋2-13-7	045-432-1111 03-851-1970
"	"	熊田正春日	吉病院	個人 自宅	223 222	横浜市港北区日吉本町1966 " 菊名5-23-8	044-63-7373 045-431-1633
"	"	土屋章	渕野辺病院	医療法人 自宅	229 "	相模原市渕野辺3-2-8 "	0427-54-2222 0427-52-5153
"	新潟県	寺田一郎	水原郷病院	市町村 自宅	959-21 "	北蒲原郡水原町岡山町13-23 " 北本町3-13	02506-2-2780 02506-2-2473
"	"	桑名昭治	桑名病院	医療法人 自宅	950 951	新潟市古川町6-4 " 二葉町1-820	0252-73-2251 0252-23-3741
"	"	鈴木寛	新潟県立新発田病院	都道府県 自宅	957 950-21	新発田市大手町4-5-48 新潟市松美台15-35	02542-2-3121 0252-67-6715
"	富山県						
"	"	西能正一郎	西能病院	医療法人 自宅	930 "	富山市五福1130 " 末広長2576-8	0764-41-2481 0764-32-3207
"	石川県	道下忠蔵	石川県立高松病院	都道府県 自宅	929-12 920	河北郡高松町字内高松ヤ36 金沢市小立野2-14-23	0762-81-1125 0762-31-7698
"	"	神野正一	恵寿病院	医療法人 自宅	926 "	七尾市富岡町94 " 96	07675-2-3211 07675-3-0421
"	福井県	長田文男	福井赤十字病院	日赤 自宅	910 "	福井市月見2-4-1 "	0776-36-3630 0776-36-0268
"	"	藤沢正清	福井県済生会病院	済生会 自宅	910 "	福井市中央2-8-6 " 大宮2-10-5	0776-23-1111 0776-21-2033
"	山梨県	安田宏	大月市立中央病院	市町村 自宅	401 166	大月市大月町花咲1225 杉並区高円寺南3-19-7	05542-2-1251 03-311-5601
"	"	島津寿秀	甲州中央温泉病院	医療法人 自宅	406 400	東八代郡石和町四日市場2031 甲府市中央2-10-8	05526-2-3121 0552-35-5451
"	"	飯田文良	山梨県立中央病院	都道府県 自宅	400 "	甲府市富士見1-1-1 甲府市美唄2-3-8	0552-53-7111 0552-52-7617

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	住所	電話
代議員	長野県	友野 隆	諏訪赤十字病院	日赤 自宅	392	諏訪市小和田19-5 " 湖岸通り4-7-12	02665-2-6111 02665-2-2109
"	"	関 守城	西病院	医療法人 自宅	390	松本市城西1-5-16 " 蟻ヶ崎1-6-10	0263-33-6400 0263-32-1338
"	岐阜県			都道府県 自宅			
"	"	山田実男	山田病院	個人 自宅	505	美濃加茂市下米田町東朽井81 " "	05742-5-3513 "
"	静岡市	植田一郎	沼津市立病院	市町村 自宅	410	沼津市三枚橋町9-1 " 本字千本1906-1	0559-63-3230 0559-62-3695
"	"	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人 自宅	430 433	浜松市住吉2-12-12 " 和合町154 和合コーポ 302号	0534-74-2222 0534-73-8737
"	"	後藤忠雄	静岡県立中央病院	都道府県 自宅	420	静岡市鷹匠3-6-1 " 北安東4-1-20	0542-45-6111 0542-47-5636
"	滋賀県	財津 晃	長浜赤十字病院	日赤 自宅	526	長浜市宮前町14-7 " 14-35	07496-3-2111 07496-2-2224
"	"	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人 自宅	520-01	大津市坂本本町660 " "	0775-78-2023 0775-78-2024
"	愛知県	緒方正吾	豊橋市民病院	市町村 自宅	440	豊橋市松葉町3-1 " 平川本町1-16-1	0532-52-6311 0532-63-2351
"	"	富永健二	名古屋第二赤十字病院	日赤 自宅	466 465	名古屋市昭和区妙見町2-9 " 名東区神丘町3-35	052-832-1121 052-701-0360
"	"	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人 自宅	491	一宮市桜1-9-9 " 東島町2-40	0586-72-1211 0586-73-6110
"	"	加藤 健三	九朗病院	" 自宅	471	豊田市小坂町7-80 " 本地町10-86	0565-32-0282 0565-32-0940
"	三重県	小山士郎	松阪市民病院	市町村 自宅	515 514	松阪市殿町1550 津市上浜町6-224-24	0598-23-1515 0592-28-4937
"	"	田中矩夫	田中病院	個人 自宅	519-01	龜山市西丸町539 " "	05958-2-1335 05958-2-0573
"	京都府	塩津徳晃	公立南丹病院	市町村 自宅	629-01 605	船井郡八木町大字八木小字上野25 京都市東山区高台寺北門通下河原 東入鷲尾町503	07714-2-2510 075-561-0306
"	"	中野 進	京都四条病院	その他法人 自宅	600 603	京都市下京区東堀川四条下ル " 北区衣笠西御所ノ内町16	075-361-5471 075-462-9267
"	大阪府	上月景光	高槻赤十字病院	日赤 自宅	569 613	高槻市阿武野1-700 京都市伏見区淀新町13	0726-96-0571 075-631-3539
"	"	西田茂樹	大阪府済生会野江病院	済生会 自宅	536 573	大阪市城東区中央2-11-18 枚方市香里ヶ丘12-5-23	06-932-0401 0720-53-4522
"	"	大道学	大道病院	医療法人 自宅	536 659	大阪市城東区東中浜1-3-17 芦屋市三条町218	06-967-7111 0797-34-0126
"	"	杉本雄三	関西電力病院	その他私的 自宅	533 535	大阪市福島区福島2-1-7 " 旭区新森4-11-3	06-458-5821 06-955-2988
"	"	加納 繁美	総合加納病院	医療法人 自宅	531 662	大阪市大淀区天神橋7-5-26 西宮市霞町4-17	06-351-5381 0798-36-6000
"	"	岸口 繁	府中病院	" 自宅	594 589	和泉市肥子町1-10-17 南河内郡狭山町大野台2-25-6	0725-41-1646 0723-66-6555

代議員	都府道名	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
	大阪府	中野博光	中野小児病院	医療法人 自宅	5 3 5 "	大阪市旭区新森 4-13-17 " " 4-21-7	06-952-4771 06-955-3730
"	兵庫県	岡田康男	姫路赤十字病院	日 赤 自宅	6 7 0 671-01	姫路市龍野町 5-30-1 " " 的形町の形 725-1	0792-94-2251 0792-54-0559
"	"	依藤省三	済生会兵庫県病院	済生会 自宅	6 5 1 6 5 9	神戸市中央区日暮通 5-5-17 芦屋市宮塚町 18-4	078-251-8558 0797-22-5941
"	"	安田俊吉	広野高原病院	医療法人 自宅	673-02 6 5 0	神戸市垂水区押部谷町西盛 566 " " 中央区中山手通 1-25-9	078-994-1155 078-221-2552
"	"	元原利武	明舞中央病院	" 自宅	6 7 3 6 7 6	明石市松が丘 4-1-32 高砂市阿弥陀町北地 256	078-917-2020 07944-7-1062
"	"	多胡 柊 祐	城南多胡病院	" 自宅	6 7 0 "	姫路市本町 15 " "	0792-25-2211 0792-88-3545
"	奈良県	久米道雄	済生会奈良病院	済生会 自宅	6 3 0 "	奈良市杉ヶ町 24 " " 法蓮山添町 744	0742-22-6881 0742-22-0317
"	"	沢井陽一	沢井病院	公益法人 自宅	6 3 0 "	奈良市船橋町 8 " " 法蓮町 890	0742-23-3086 0742-26-0212
"	和歌山県	古田浩二	国保日高病院	市町村 自宅	6 4 4 649-12	御坊市藪 116-2 日高郡日高町荆木 1223	07382-2-1111 07386-3-2662
"	"	内藤行雄	和歌山赤十字病院	日 赤 自宅	6 4 0 6 4 1	和歌山市小松原通り 4-1 " " 東小二里町 6-5	0734-22-4171 0734-45-2919
"	"	瀬藤光仁	瀬藤病院	医療法人 自宅	6 4 0 "	和歌山市岡山町 9 " " 西浜 964-2	0734-24-3181 0734-44-2978
"	"	神保勝俊	宮本病院	" 自宅	6 4 1 "	和歌山市塩屋 3-6-1 " " 和歌浦東 2-1-62	0734-44-0576 0734-44-0051
"	"	月山和男	月山病院	個 人 自宅	6 4 0 6 4 1	和歌山市小松原通り 1-3 " " 新高町 7-28	0734-23-2300 0734-44-0981
"	鳥取県	岩宮 緑	鳥取県済生会境港病院	済生会 自宅	6 8 4 6 8 3	境港市米川町 44 米子市立町 1-56	08594-2-3161 0859-22-3359
"	"	野島 鉄之助	野島病院	医療法人 自宅	6 8 2 "	倉吉市瀬崎町 2714-1 " "	08582-2-6231 "
"	島根県			都道府県 自宅			
"	"	森本正紀	森本産婦人科病院	個 人 自宅	6 9 0 "	松江市雑賀町 82 " " 56	0852-25-2250 0852-24-4848
"	岡山県	大和 人士	岡山済生会総合病院	済生会 自宅	7 0 0 "	岡山市伊福町 1-17-18 " " 番町 1-5-7	0862-52-2211 0862-23-3958
"	"	宮本祥郎	総合病院津山中央病院	公益法人 自宅	7 0 8 "	津山市二階町 67 " " 田町 47	08682-2-6111 08682-2-4773
"	"	木田 恵三	新見中央病院	医療法人 自宅	7 1 8 "	新見市新見 827-1 " "	08677-2-2110 08677-2-2307
"	広島県	甲斐太郎	広島市民病院	市町村 自宅	7 3 0 "	広島市基町 7-33 " " 中区白島九軒町 24-7	0822-21-2291 0822-21-7351
"	"	岡田泰二	岡田病院	個 人 自宅	7 3 4 "	広島市南区元字品町 26-19 " " 26-41	0822-55-3911 0822-51-5458
"	山口県	吉富正一	総合病院山口赤十字病院	日 赤 自宅	7 5 3 "	山口市八幡馬場 53-1 " " 後河原 33	0839-23-0111 0839-23-0270
"	"	村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人 自宅	7 4 7 "	防府市三田尻 1-1-24 " " 1-1-35	0835-22-2310 0835-22-3882

役職名	都府県別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
代議員	香川県	萱田 静海	香川労災病院	その他公的 自宅	763	丸亀市城東町148 " " 3-3-3	08772-3-3111 08772-2-6784
"	"	藤原 憲和	総合病院回生病院	医療法人 自宅	762	坂出市室町3-5-28 " " 花町1-32	08774-6-1011 08774-5-0120
"	愛媛県	土屋 定敏	総合病院松山赤十字病院	日 赤 自宅	790	松山市文京町1 " " 北持田町121	0899-24-1111 0899-47-0345
"	"	松尾 慎一郎	十全総合病院	公益法人 自宅	792	新居浜市北新町1-5 " " 中萩町13-64	0897-33-1818 0897-43-2167
"	徳島県			日 赤 自宅			
"	"	中西 修	中西整形外科病院	医療法人 自宅	770	徳島市中通町1-29-1 " "	0886-26-3822 "
"	高知県	飯塚 治	高知市立市民病院	市町村 自宅	780	高知市丸ノ内1-7-45 " " 福井町2235-28	0888-22-6111 0888-72-7476
"	"	岡村 一雄	岡村病院	医療法人 自宅	780	高知市入明町1-5 " " 大川筋2-7-3	0888-22-5155 0888-25-2626
"	福岡県	兵働 貞夫	浜の町病院	その他公的 自宅	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27 " " 梅光園2-8-3	092-721-0831 092-731-3001
"	"	井手 一郎	聖マリア病院	医療法人 自宅	830	久留米市津福本町422 " "	0942-35-3322 0942-33-8030
"	"	原 安彦	香椎原病院	" 自宅	813	福岡市東区香椎3-3-1 " "	092-662-1333 092-671-5631
"	"	弓削 静彦	大牟田市立病院	市町村 自宅	836	大牟田市不知火町3-3 " " 浄真町71	09445-3-1061 09445-3-5281
"	"	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	済生会 自宅	810	福岡市中央区天神1-3-46 " " 博多区中洲5-1-19	092-771-8151 092-291-1253
"	佐賀県	鶴丸 廣長	佐賀県立病院好生館	都道府県 自宅	840	佐賀市水ヶ江1-12-9 " " 4-1-27	0952-24-2171 0952-23-4347
"	"	山口 弾之至	誠会病院	医療法人 自宅	840	佐賀市田代2-7-24 " "	0952-24-5325 "
"	長崎県	福井 順	福井病院	" 自宅	851-03 850	長崎市深堀町1-11-54 " " 江川町448-7	0958-71-1515 0958-78-3512
"	大分県			" 自宅			
"	沖縄県	比嘉 實	沖縄赤十字病院	日 赤 自宅	902 900	那覇市古波蔵113 " " 松山35-6	0988-53-3134 0988-68-7380

社団法人

日本病院会委員会委員長名簿

(自昭和55年4月1日
至昭和58年3月31日)(順不同)

委員会・委員長名	病 院 名	〒	連 絡 先	電 話
教育委員会 委員長 村田 勇	富山県立中央病院	930	富山市西長江220	0764-24-1531
臨床予防医学委員会 委員長 堀内 光	東京都済生会中央病院	108	港区三田1-4-17	03-451-8211
医療制度委員会 委員長 小西 宏	神奈川県立こども医療センター	232	横浜市南区六ツ川2-138-4	045-711-2351
通信教育委員会 委員長 高橋 政 祺	杏林大学医学部	181	三鷹市新川6-20-2	0422-47-5511
学術委員会 委員長 北原 哲 夫	東京通信病院	102	千代田区富士見2-14-23	03-261-8211
広報委員会 委員長 高山 瑩	高山整形外科病院	125	葛飾区金町3-4-5	03-607-3260
情報センター委員会 委員長 細川 一 郎	静岡赤十字病院	420	静岡市追手町8-2	0542-54-4311
社会保険委員会 委員長 諸橋 芳 夫	国保旭中央病院	289-25	旭市イ-1326	04796-3-8111
医療経済委員会 委員長 有澤 源 蔵	有澤総合病院	573	枚方市中宮東之町12-14	0720-47-2606
病院管理委員会 委員長 野村 秋 守	野村病院	181	三鷹市下連雀8-3-6	0422-47-4848
病院倫理綱領特別委員会 委員長 吉岡 観 八	新千里病院	565	吹田市津雲台1-1-D6	06-871-0121
病院情報センター運営委員会 運営委員長 三宅 浩 之	関東通信病院	141	品川区東五反田5-9-22	03-448-6537

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

自 昭和56年 4月 1日
至 昭和57年 3月 31日

1. 医療制度委員会

小西宏	委員長	神奈川県立こども医療センター	神奈川県	045-711-2351
河野稔	委員	北品川総合病院	東京都	03- 474-0023
諸橋芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
小野肇	委員	大口病院	神奈川県	045-401-3861
鈴木憲輔	委員	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
左奈田幸夫	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
佐分利輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03- 203-5327
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03- 465-1111
渡辺茂夫	委員	社会保険中央総合病院	東京都	03-999-0287(自)
紀伊國献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
井上昌彦	委員	北里大学	東京都	03- 444-6161
津田豊和	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03- 203-5327
尾崎恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
矢野正子	委員	都立神経病院	東京都	0423-23-5111
荒井蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03- 543-6391

2. 社会保険委員会

諸橋芳夫	委員長	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03- 339-2121
尾口平吉	委員	全国自治体病院協議会	東京都	03- 261-8555
落合勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03- 381-0196
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06- 448-1851
黒田幸男	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211

高橋政夫	委員	大森赤十字病院	東京都	03-775-3111
吉崎芳雄	委員	厚生連	東京都	03-279-0311
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

3. 医療経済委員会

有澤源蔵	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
遠山豪	委員	遠山病院	三重県	0592-27-6171
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
土屋章	委員	淵野辺病院	神奈川県	0427-54-2222
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
蘭部雅一	委員	兵庫医科大学	兵庫県	0798-45-6500
酒泉春雄	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
星源孝	委員	総合会津中央病院	福島県	0242-25-1515
森久雄	委員	森会計事務所	東京都	03-970-2127
伊藤寛	委員	伊藤会計事務所	愛知県	052-541-0166

4. 病院管理委員会

野村秋守	委員長	野村病院	東京都	0422-47-4848
北村行彦	副委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
榊原宏	副委員長	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
池谷巨	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
榎本敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031

5. 教育委員会

村田勇	委員長	富山県立中央病院	富山県	0764-24-1531
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111

榊原 宏	委員	榊原 十全病院	岡山県	0862-25-1921
三宅 浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03- 448-6537
菱山 博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
川北 祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03- 813-3111
落合 勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03- 381-0196
内田 卿子	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
吉武 香代子	委員	千葉大学看護学部	千葉県	0472-22-7171
土井 正	委員	山田総合病院	東京都	03- 962-5051

6. 臨床予防医学委員会

榎田 良精	委員長	関東中央病院	東京都	03- 429-1171
鈴木 豊明	副委員長	東京警察病院	東京都	03- 263-1371
藤間 弘行	副委員長	藤間病院	埼玉県	0485-22-0600
安藤 幸夫	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
飯田 晶	委員	東芝中央病院	東京都	03- 764-0511
宇津 典彦	委員	久留米大学病院	福岡県	0942-35-3311
榎本 敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
小関 忠尚	委員	京都第二赤十字病院	京都府	075-231-5171
金沢 鉄男	委員	青森県立中央病院	青森県	0177-26-8302
清瀬 闊	委員	三井記念病院	東京都	03- 862-9111
笹森 典雄	委員	牧田総合病院	東京都	03- 762-4671
高橋 春雄	委員	愛知県総合保健センター	愛知県	052-962-5371
田中 剛二	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211
丹野 三男	委員	仙台市立病院	宮城県	0222-25-7151
寺田 由紀夫	委員	大阪赤十字病院	大阪府	06- 771-5131
日野原 重明	委員	聖路加看護大学	東京都	03- 543-6391
松岡 研	委員	P L 病院	大阪府	07212-4-3100
三木 徹	委員	丸山病院	兵庫県	078-642-1031

7. 通信教育委員会

高橋政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
田中敏行	副委員長	大阪通信病院	大阪府	06- 771-0545
犬塚貞光	委員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町文子	委員	元日本パプテスト病院	京都府	075-701-8016
落合勝一郎	委員	聖路加看護大学	東京都	03- 543-6391
笠井良一	委員	元日本パプテスト病院	京都府	075-701-8016
栗田静枝	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
竹中喬	委員	大阪府立 母子保健総合医療センター	大阪府	0725-56-1220
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111

8. 学術委員会

渡辺進	相談役	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311
北原哲夫	委員長	東京通信病院	東京都	03- 261-8211
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111
秋山博	委員	済生会川口総合病院	埼玉県	0482-53-1551
鎌田利雄	委員	北品川総合病院	東京都	03- 474-7730
高橋政祺	委員	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03- 972-8111
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03- 448-6537
山本修	委員	都立看護専門学校	東京都	03- 941-9321

9. 広報委員会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03- 607-3260
江本俊秀	委員	東海病院	東京都	03- 999-1131
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
川北祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03- 813-3111
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03- 738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
沢田光正	委員	佼正病院	東京都	03- 383-1281

後藤直昭	委員	船橋中央病院	千葉県	0474-33-2111
木村千枝子	委員	東京日立病院	東京都	03- 831-2181
平和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211
行天良雄	相談役	日本放送協会	東京都	03- 465-1111

10. 情報センター委員会

細川一郎	委員長	静岡赤十字病院	静岡県	0542-54-4311
三宅浩之	副委員長	関東逋信病院	東京都	03- 448-6537
青木禧和	委員	日本病院団体連合会	東京都	03- 585-1651
池田博	委員	東京慈恵会医科大学	東京都	03- 433-1111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田行雄	委員	電々公社データ通信本部	東京都	03- 509-4529
土井義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
水野精巳	委員	元豊洲厚生病院	東京都	
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03- 972-8111

11. 国際委員会

河野稔	委員長	北品川総合病院	東京都	03- 474-0023
吉岡観八	委員	新千里病院	大阪府	06- 871-0121
高橋勝三	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111
国重信彦	委員	佼成病院	東京都	03- 383-1281
紀伊國献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-3067
関武矩	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
久保文苗	委員	日本医薬情報センター	東京都	03- 406-1811
三宅浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03- 448-6537
高橋政祺	委員	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
波多野誠	委員	九段坂病院	東京都	03- 262-9191
高杉成一	委員	東京大学医学部	東京都	03- 812-2111
樋口康子	委員	日本赤十字社	東京都	03- 498-2995

(特別委員会)

医療費対策特別委員会

吉岡 観 八	委員長	新千里病院	大阪府	06-871-0121
榎本 敏 雄	副委員長	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
有澤 源 蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
池谷 巨	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大野 松 次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
岡山 義 雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
北原 哲 夫	委員	東京通信病院	東京都	03-261-8211
高山 瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
三宅 浩 之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537

諸規定検討委員会

野村 秋 守	委員	野村病院	東京都	0422-47-4848
大野 松 次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
池谷 巨	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
榎本 敏 雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
高山 瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
財津 晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
上畑 邦 朝	委員	社日本病院会	東京都	03-265-0077

会 員 状 況

昭和57年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	39	新 潟	48	鳥 取	8
青 森	13	静 岡	49	島 根	11
岩 手	10	愛 知	109	山 口	25
秋 田	26	岐 阜	27	香 川	10
山 形	10	三 重	34	徳 島	4
宮 城	16	滋 賀	21	高 知	25
福 島	26	京 都	48	愛 媛	20
栃 木	9	大 阪	159	福 岡	60
茨 城	25	奈 良	31	佐 賀	5
群 馬	20	和 歌 山	62	長 崎	37
埼 玉	40	兵 庫	153	熊 本	15
千 葉	36	富 山	13	大 分	6
神 奈 川	83	石 川	12	宮 崎	8
東 京	243	福 井	8	鹿 児 島	5
山 梨	33	岡 山	79	冲 縄	2
長 野	16	広 島	29	合 計	1,768

	昭和56年4月1日	昭和57年3月31日	増 減
正 会 員	1,775	1,768	- 7
賛 助 会 員 A	132	140	+ 8
B	112	114	+ 2
C	15	14	- 1
D	103	99	- 4
計	2,137	2,135	- 2